

第四十條 繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終リ迄遞次繰越使用スルコトヲ得
 第四十一條 一件五百圓以上ノ工事ノ請負、物件ノ賣買貸借及勞力ノ供給ハ競争入札ニ附スヘシ但シ特別ノ事情アル
 トキハ道知事ノ認可ヲ受ケ競争入札ニ附セサルコトヲ得

第四十二條 現金ハ郵便局所、確實ナル銀行又ハ金融組合ニ預入ルヘシ但シ五十圓以下ノ現金ハ此ノ限ニ在ラス
 第四章 監督

第四十三條 左ニ掲クル事件ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 特別賦課金ヲ新設シ増額シ又ハ變更スル事
- 二 起債ヲ爲シ並起債ノ方法、利率及償還方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ借入額ノ減少利率ノ低減、償還年限ノ短縮若ハ繰上償還ヲ爲シ又ハ既定ノ償還年限ヲ延長セスシテ低利ノ借替ヲ爲ス場合ヲ除ク

第四十四條 左ニ掲クル事件ハ道知事ノ認可ヲ受クヘシ

- 一 夫役現品ヲ賦課スル事
- 二 基本財産ノ設置、管理及處分ニ關スル事
- 三 不動産ノ處分ニ關スル事
- 四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
- 五 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事
- 六 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事

附 則

本令ハ朝鮮學校費令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正九年七月一日ヨリ施行)

公立普通學校費用令施行規則ハ之ヲ廢止ス

大正九年度ノ學校費賦課金ノ賦課徵收及歳入歳出ノ經理ニ關シテハ從前ノ例ニ依ル

本令施行後一年內ニ行フ選舉ニ付テハ公立普通學校費用負擔金ハ之ヲ學校費賦課金ト看做ス

大正八年度ニ於テ公立普通學校費用負擔金ヲ賦課セサル府郡島ニ在リテハ前項ノ選舉ニ付第二條又ハ第六條ノ要件中
 賦課金額及其ノ年限ニ付道知事ハ朝鮮總督ノ認可ヲ受ケ別段ノ規定ヲ爲スコトヲ得

附 則 (大一〇第八一號)

本令ハ大正十年度分ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (大一一第一八號)

本令ハ大正十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭二第一號)

本令ハ昭和二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス
 本令施行後一年內ニ行フ學校評議員ノ選舉ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル同選舉ニ依リ當選シタル者ノ資格ニ付其ノ在
 任期間中亦同シ

附 則 (昭四第八號)

本令ハ昭和四年一月一日ヨリ之ヲ適用ス
 昭和四年一月一日以後一年內ニ調製スル選舉人名簿ニ依リ行フ學校評議員ノ選舉又ハ一年內ニ行フ學校評議員ノ
 候補者ノ選舉ニ付テハ同日目前ニ於ケル市街地稅ヲ以テ地稅ト看做ス

附 則 (昭五第三號)

本令ハ昭和五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭五第一〇六號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭七第二三號)

本令ハ昭和七年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 錄

附 則 (昭一一第四號)

本令ハ昭和十一年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭一二第七號)

本令ハ昭和十二年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭一三第二〇號)

本令ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

● 學校組合令

大二、一〇
訓令第八號

改正 昭五第一四號

第一條 學校組合ハ法人トス官ノ監督ヲ承ケ法令ノ範圍内ニ於テ内地人ノ教育ニ關スル事務ヲ處理ス

第二條 學校組合ヲ設置セムトスルトキハ發起人ハ區域ヲ定メ組合規約ヲ作り朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ但シ府ノ區域ハ之ヲ學校組合ノ區域ト爲スコトヲ得ス

第三條 學校組合ノ區域内ニ住所ヲ有シ獨立ノ生計ヲ營ム内地人三分ノ二以上ノ同意ヲ得タルモノナルコトヲ要ス

組合員ハ本令ニ依リ營造物ヲ共用スル權利ヲ有シ組合ノ負擔ヲ分任スル義務ヲ負フ

第四條 學校組合ノ分合廢止又ハ區域ノ變更ヲ爲サムトスルトキハ關係組合ハ其ノ組合會ノ議決ヲ經テ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ之カ爲組合規約ノ設定若ハ變更又ハ財産處分ヲ要スルトキ亦同シ

何レノ學校組合ノ區域ニモ屬セサル地域ヲ組合ノ區域ニ編入セムトスル場合ニ於テハ第二條第二項ノ規定ニ準シ新ニ組合員タルヘキ者ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

第四條ノ二 學校組合ノ區域ノ全部カ府ノ區域ト爲リタルトキハ其ノ學校組合ハ消滅ス

學校組合ノ區域ノ一部カ府ノ區域ト爲リタルトキハ其ノ區域ハ學校組合ノ區域ヨリ離脱ス

學校組合ノ區域ノ大部分カ府ノ區域ト爲リタル爲學校組合ヲ存續セシムルコト不適當ナリト認ムルトキハ朝鮮總督ハ學校組合會ノ意見ヲ徵シ其ノ學校組合ヲ廢止スルコトヲ得

第四條ノ三 前條第一項ノ場合又ハ前條第三項ノ規定ニ依リ學校組合ヲ廢止シタル場合ニ於テハ學校組合ノ事務及財産ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ府之ヲ承繼ス

前條第二項ノ場合ニ於テ處分ヲ要スル財産アルトキハ其ノ處分ハ關係アル學校組合會及府ノ教育部會ノ意見ヲ徵シ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ道知事之ヲ定ム

第四條ノ四 學校組合ノ分合、消滅又ハ區域變更ノ場合ニ於テ學校組合ノ事務ニ關シ必要ナル事項ハ本令ニ規定スルモノノ外朝鮮總督之ヲ定ム

第五條 學校組合ニ組合會ヲ置ク

第六條 組合會議員ハ之ヲ選舉ス

組合會議員ハ名譽職トス

組合會議員ノ選舉人及被選舉人ノ資格ニ關スル事項ハ組合規約ヲ以テ之ヲ定ムヘシ

第七條 組合會ハ組合ニ關スル事件ヲ議決ス

組合會ノ議決スヘキ事件ノ概目左ノ如シ

- 一 組合規約ヲ變更スル事
- 二 歳入出豫算ヲ定ムル事
- 三 決算報告ヲ認定スル事
- 四 基本財産、特別基本財産及積立金費等ノ設置管理及處分ニ關スル事
- 五 不動産ノ管理及處分ニ關スル事

- 六 財産及營造物ノ管理方法ヲ定ムル事但シ法令ニ規定アルモノハ此ノ限ニ在ラス
- 七 法令ニ定ムルモノヲ除クノ外使用料、手数料、組合費及夫役現品並其ノ賦課徴收ニ關スル事
- 八 組合債ニ關スル事
- 九 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ又ハ權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 十 組合ニ係ル訴訟及和解ニ關スル事
- 第七條ノ二 學校組合會ハ學校組合ニ關スル事件ニ付意見書ヲ郡守、島司其ノ他ノ關係官廳ニ提出スルコトヲ得
- 第七條ノ三 學校組合會ハ官廳ノ諮問アルトキハ意見ヲ答申スヘシ
- 學校組合會ノ意見ヲ徵シテ處分ヲ爲スヘキ場合ニ於テ學校組合會成立セス、招集ニ應セス若クハ意見ヲ答申セス又ハ學校組合會ヲ招集スルコト能ハサルトキハ當該官廳ハ其ノ意見ヲ俟タスシテ直ニ處分ヲ爲スコトヲ得
- 第八條 組合會ノ權限ニ屬スル事件ノ一部ハ其ノ議決ニ依リ管理者ヲシテ之ヲ專決處分セシムルコトヲ得
- 第九條 前四條ニ定ムルモノヲ除クノ外組合會並ニ組合會議員ノ選舉及其ノ取締ニ關スル事項ハ朝鮮總督之ヲ定ム
- 第九條ノ二 特別ノ事情アル組合ニ於テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フルコトヲ得
- 組合員ノ總會ニ關シテハ組合會ニ關スル本令ノ規定ヲ準用ス
- 第十條 學校組合ニ管理者ヲ置ク
- 管理者ハ組合員中ヨリ道知事之ヲ命ス其ノ任期ハ四年トス
- 管理者ハ名譽職トス但シ必要ニ依リ有給ト爲スコトヲ得
- 第十一條 管理者ハ組合ヲ代表シ組合一切ノ事務ヲ擔任ス
- 第十二條 組合會ノ議決其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ニ背クト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ郡守若ハ島司ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ管理者ハ道知事ノ指揮ヲ請ヒ直ニ其ノ議決ヲ取消スコトヲ得

- 前項ノ規定ニ依リ爲シタル組合會ノ議決仍其ノ權限ヲ越エ又ハ法令ニ背クト認ムルトキハ管理者ハ道知事ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決ヲ取消スヘシ
- 第十二條ノ二 組合會ノ議決明ニ公益ヲ害シ又ハ組合ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ管理者ハ其ノ意見ニ依リ又ハ郡守若ハ島司ノ指揮ニ依リ理由ヲ示シテ之ヲ再議ニ付スヘシ但シ特別ノ事由アリト認ムルトキハ管理者ハ道知事ノ指揮ヲ請ヒ直ニ其ノ議決ヲ取消スコトヲ得
- 前項ノ規定ニ依リ爲シタル組合會ノ議決仍明ニ公益ヲ害シ又ハ組合ノ收支ニ關シ不適當ナリト認ムルトキハ管理者ハ道知事ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決ヲ取消スコトヲ得但シ前項ノ規定ニ依リ更ニ再議ニ付スルコトヲ妨ケス
- 第十二條ノ三 組合會成立セサルトキ、招集ニ應セサルトキ、會議ヲ開クコト能ハサルトキ又ハ議決スヘキ事件ヲ議決セサルトキハ管理者ハ道知事ノ指揮ヲ請ヒ其ノ議決スヘキ事件ヲ處分スルコトヲ得前二條ノ規定ニ依リ組合會ノ議決ヲ取消シタルトキ亦同シ
- 第十二條ノ四 組合會ニ於テ議決スヘキ事件ニ關シ臨時急施ヲ要スル場合ニ於テ組合會成立セサルトキ又ハ管理者ニ於テ之ヲ招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ管理者ハ之ヲ專決處分スルコトヲ得
- 第十二條ノ五 前二條ノ規定ニ依ル處分ニ付テハ次回ノ會議ニ於テ之ヲ組合會ニ報告スヘシ
- 第十三條 學校組合ニ有給又ハ名譽職ノ吏員ヲ置クコトヲ得
- 吏員ハ管理者之ヲ任免ス
- 吏員ハ管理者ノ命ヲ承ケ事務ニ従事ス
- 第十四條 管理者ハ組合吏員ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス
- 第十五條 削除
- 第十六條 組合會議員、名譽職タル管理者及吏員ハ職務ノ爲要スル費用ノ辨償ヲ受クルコトヲ得
- 名譽職タル管理者及吏員ニハ費用辨償ノ外勤務ニ相當スル報酬ヲ給スルコトヲ得

費用辨償額、報酬額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經テ道知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十七條 有給ノ管理者及吏員ノ給料額、旅費額及其ノ支給方法ハ組合會ノ議決ヲ經テ道知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ム

第十八條 有給ノ管理者及吏員ニハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ退職料、退職給與金、死亡給與金又ハ遺族扶助料ヲ給スルコトヲ得

第十九條 收益ノ爲ニスル組合ノ財産ハ基本財産トシテ之ヲ維持スヘシ

組合ハ特定ノ目的ノ爲特別ノ基本財産ヲ設ケ又ハ金穀等ヲ積立ツルコトヲ得

第二十條 組合ハ營造物ノ使用ニ付使用料ヲ徴收スルコトヲ得

組合ハ特ニ一個人ノ爲ニスル事務ニ付手数料ヲ徴收スルコトヲ得

第二十一條 組合ハ内地人ノ教育ニ關シ必要アル場合ニ於テハ寄附又ハ補助ヲ爲スコトヲ得

第二十二條 組合ハ其ノ必要ナル費用及法令ニ依リ組合ノ負擔ニ屬スル費用ヲ支辨スル義務ヲ負フ

組合ハ其ノ財産ヨリ生スル收入其ノ他組合ニ屬スル收入ヲ以テ前項ノ支出ニ充テ仍不足アルトキハ組合費及夫役現品ヲ賦課徴收スルコトヲ得

第二十三條 組合費ノ賦課ニ關シ必要アル場合ニ於テハ當該管理者又ハ吏員ハ組合員ノ家宅若ハ營業所ニ臨檢シ又ハ帳簿物件ノ検査ヲ爲スコトヲ得

第二十四條 組合費又ハ夫役現品ノ賦課ヲ受ケタル者其ノ賦課ニ付違法又ハ錯誤アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

第二十五條 組合費、使用料及手数料ノ賦課徴收ニ關スル事項ニ付テハ組合規約中ニ五圓以下ノ過料ヲ科スル規定ヲ設クルコトヲ得

第二十六條 組合費其ノ他組合ニ屬スル徴收金ハ道ノ徴收金ニ次テ先取特權ヲ有シ其ノ追徴、還付及時效ニ付テハ國稅ノ例ニ依ル

第二十七條 組合ハ其ノ負債ヲ償還スル爲、組合ノ永久ノ利益ト爲ルヘキ支出ヲ爲ス爲又ハ天災事變ノ爲必要アル場合ニ限リ組合債ヲ起スコトヲ得

組合ハ豫算内ノ支出ヲ爲ス爲一時ノ借入金ヲ爲スコトヲ得

前項ノ借入金ハ其ノ會計年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘシ

第二十八條 組合ハ毎會計年度歳入出豫算ヲ調製スヘシ

組合ノ會計年度ハ政府ノ會計年度ニ依ル

第二十九條 組合費ヲ以テ支辨スヘキ事件ニシテ數年ヲ期シテ其ノ費用ヲ支出スヘキモノハ其ノ年期間各年度ノ支出額ヲ定メ繼續費ト爲スコトヲ得

第三十條 組合ノ支拂金ニ關スル時効ニ付テハ政府ノ支拂金ノ例ニ依ル

第三十一條 組合ハ第一次ニ於テ郡守又ハ島司之ヲ監督シ第二次ニ於テ道知事之ヲ監督シ第三次ニ於テ朝鮮總督之ヲ監督ス

組合ノ區域數郡ニ跨ルトキハ其ノ監督官廳ハ朝鮮總督之ヲ指定ス

監督官廳ハ組合ノ監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得

第三十二條 左ニ掲クル事件ハ朝鮮總督ノ許可ヲ受クヘシ

一 組合規約ヲ變更スル事

二 組合債ヲ起シ並起債ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法ヲ定メ又ハ之ヲ變更スル事但シ其ノ年度内ノ收入ヲ以テ償還スヘキ一時ノ借入金ハ此ノ限ニ在ラス

第三十三條 左ニ掲クル事件ハ道知事ノ許可ヲ受クヘシ

一 基本財産ノ管理及處分ニ關スル事

二 特別基本財産及積立金穀等ノ設置管理及處分ニ關スル事但シ積立金穀等ヲ其ノ目的ノ爲使用スル場合ハ此ノ限

- ニ在ラス
 - 三 不動産ノ處分ニ關スル事
 - 四 寄附又ハ補助ヲ爲ス事
 - 五 使用料、手数料、組合費及夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル事
 - 六 一時ノ借入金ヲ爲ス事
 - 七 繼續費ヲ定メ又ハ變更スル事
 - 八 歳入出豫算ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外新ニ義務ノ負擔ヲ爲シ及權利ノ拋棄ヲ爲ス事
- 第三十四條** 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ監督官廳ハ許可申請ノ趣旨ニ反セスト認ムル範圍内ニ於テ更正シテ許可ヲ與フルコトヲ得
- 第三十五條** 監督官廳ノ許可ヲ要スル事件ニ付テハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ其ノ許可ノ職權ヲ下級官廳ニ委任シ又ハ輕易ナル事件ニ限り許可ヲ受ケシメサルコトヲ得
- 第三十六條** 道知事ハ組合管理者ニ對シ懲戒ヲ行フコトヲ得其ノ懲戒處分ハ譴責、二十五圓以下ノ過怠金及解職トス
- 第三十七條** 組合ノ財務ニ關スル規定並ニ組合管理者及組合吏員ノ服務紀律、賠償責任、身元保證及事務引繼ニ關スル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム
- 附 則
- 第三十八條** 本令施行ノ期日ハ朝鮮總督之ヲ定ム(大正三年四月一日ヨリ施行)
- 第三十九條** 本令施行ノ際現ニ存スル學校組合ハ本令ニ依リ設置シタルモノト看做ス
- 第四十條** 清津以外ノ府ノ府尹ハ本令施行後直ニ學校組合ノ區域ヲ定メ組合規約ヲ作り朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ學校組合ヲ設置スヘシ
- 前項ノ規定ニ依リ設置シタル學校組合ハ本令施行ノ日ニ於テ設置シタルモノト看做ス

第四十一條 本令施行ノ際必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

附 則 (昭五第一四號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十六條ノ改正規定ハ道制施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ存スル學校組合ニシテ府ノ區域ヲ包含スルモノハ之ヲ廢止ス

前項ノ學校組合ノ事務及財産ハ朝鮮總督ノ定ムル所ニ依リ府之ヲ承繼ス

本令施行ノ際現ニ學校組合ノ管理者ノ職ニ在ル者ノ任期ハ從前ノ規定ニ依ル

本令施行ノ際必要ナル規定ハ朝鮮總督之ヲ定ム

● 學校組合令施行規則

大三、一
總令第六號

改正 大三第一一九號、昭二第五二號、四第八六號、五第一〇七號

第一章 設置及廢止

第一條 學校組合設置ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ發起人ハ其ノ願書ニ同意者ノ署名捺印シタル組合規約及左ノ書類

ヲ添附スヘシ

- 一 組合區域内ニ住所ヲ有スル内地人ノ職業別戶口表
 - 二 入學スヘキ學年別兒童數表
 - 三 校舍ノ設備豫定書
 - 四 組合員タルヘキ者ノ資力調査
 - 五 歳入歳出概算
 - 六 組合區域及隣接地ノ略圖
- 第二條** 組合規約ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

- 一 組合ノ名稱及區域
- 二 組合會議員ノ選舉人及被選舉人ノ資格又ハ組合員ノ總會ニ關スル規定
- 三 組合吏員ニ關スル規定
- 四 組合費、使用料、手数料及夫役現品ノ賦課徴收ニ關スル規定
- 五 前各號ノ外必要ナル規定

組合規約ハ組合管理者之ヲ告示スヘシ

第三條 組合創立ニ關スル費用ハ組合成立ノ後組合費ヲ以テ支辨スヘシ

第四條 學校組合令第四條第一項ノ許可ヲ受ケムトスルトキハ關係組合會ノ會議錄ヲ添附シ願出ツヘシ

第五條 學校組合令第四條第二項ノ場合ニ於テハ其ノ同意ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條 組合ノ設置、分合、消滅又ハ區域ノ變更ハ朝鮮總督之ヲ告示ス

第二章 組合會

第六條 組合會議員ノ定數左ノ如シ

- 一 組合員五百未満 六人
 - 二 組合員五百以上二千未満 八人
 - 三 組合員二千以上五千未満 十人
 - 四 組合員五千以上一萬未満 十二人
 - 五 組合員一萬以上二萬未満 十四人
 - 六 組合員二萬以上四萬未満 十六人
 - 七 組合員四萬以上 十八人
- 前項ノ組合員ノ數ハ道知事ノ認定ニ依ル

議員ノ定數ハ總選舉ヲ行フ場合ニ非サレハ之ヲ増減セス

第七條 組合成立シタルトキハ組合管理者ハ遲滞ナク組合會議員ノ選舉ヲ行フヘシ

第八條 新ニ組合ヲ設置シタル場合ニ於テ組合會成立スルニ至ル迄ノ間議員ノ選舉ニ付組合會ノ決定スヘキ事件ハ管理者之ヲ決定スヘシ

第九條 組合會議員ノ任期ハ四年トシ總選舉ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第十條 組合會議員中其ノ關員議員定數ノ三分ノ一以上ニ至リタルトキハ補關選舉ヲ行フヘシ關員議員定數ノ三分ノ一ニ至ラスト雖管理者ニ於テ必要アリト認ムルトキハ補關選舉ヲ行フコトヲ得

補關議員ハ其ノ前任者ノ殘任期間在任ス

第十一條 管理者ハ選舉期日前五十日ヲ期トシ其ノ日ノ現在ニ依リ選舉人名簿ヲ調製スヘシ

管理者ハ選舉期日前三十日ヲ期トシ其ノ日ヨリ七日間毎日午前八時ヨリ午後四時迄組合事務所又ハ告示シタル場所ニ於テ選舉人名簿ヲ關係者ノ縱覽ニ供スヘシ關係者ニ於テ異議アルトキハ縱覽期間内ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得此ノ場合ニ於テ管理者ハ縱覽期間滿了後三日内ニ組合會ノ決定ニ付スヘシ組合會ハ其ノ送付ヲ受ケタル日ヨリ七日内ニ之ヲ決定スヘシ

前項ノ決定ニ異議アル者ハ三日内ニ之ヲ道知事ニ申立ツルコトヲ得管理者ニ於テ異議アルトキ亦同シ

前二項ノ場合ニ於テ組合會ノ決定確定シ又ハ道知事ノ決定アリタルニ依リ選舉人名簿ノ修正ヲ要スルトキハ管理者ハ其ノ確定期日前ニ修正ヲ加フヘシ

選舉人名簿ハ選舉期日前三日ヲ以テ確定ス

選舉人名簿ハ道知事ノ指定スル場合ヲ除クノ外其ノ確定シタル日ヨリ一年内ニ行フ選舉ニ之ヲ用フ但シ名簿確定後道知事ノ決定アリタルニ依リ名簿ノ修正ヲ要スルトキハ選舉ヲ終リタル後ニ於テ次ノ選舉期日前四日迄ニ之ヲ修正スヘシ

選舉人名簿ヲ修正シタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ要領ヲ告示スヘシ
確定名簿ニ登録セラレサル者ハ選舉ニ參與スルコトヲ得ス但シ選舉人名簿ニ登録セラルヘキ道知事ノ決定書ヲ所持
シ選舉ノ當日選舉會場ニ到ル者ハ此ノ限ニ在ラス

確定名簿ニ登録セラレタル者選舉權ヲ有セサルトキ又ハ選舉權ヲ行使スルヲ得サルトキハ選舉ニ參與スルコトヲ得
ス但シ名簿ハ之ヲ修正セス

第二項又ハ第三項ノ場合ニ於テ決定アリタルニ依リ名簿無効ト爲リタルトキハ更ニ名簿ヲ調製スヘシ其ノ名簿ノ調
製、縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期日、期限及期間ハ第一次監督官廳ノ定ムル所ニ依ル名簿ノ喪失シタ
ルトキ亦同シ

選舉人名簿調製後ニ於テ選舉期日ヲ變更スルコトアルモ其ノ名簿ヲ用キ縦覽、修正、確定及異議ノ決定ニ關スル期
日、期限及期間ハ前選舉期日ニ依リ之ヲ算定ス

選舉人名簿調製及縦覽ニ關スル期日、期間ハ第一項及第二項ノ規定ニ拘ラス組合規約ヲ以テ別ニ之ヲ定ムルコトヲ得
第二項又ハ第三項ノ異議ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第十二條 管理者ハ選舉期日前少クモ七日間選舉會場、投票ノ日時及選舉スヘキ議員數ヲ告示スヘシ

第十三條 管理者ハ選舉會ヲ閉閉シ其ノ取締ニ任ス
管理者ハ選舉人中ヨリ二人乃至四人ノ選舉立會人ヲ選任スヘシ
選舉立會人ハ名譽職トス

第十四條 選舉ハ無記名投票ヲ以テ之ヲ行フ
選舉人ハ選舉會場ニ於テ投票用紙ニ自ラ選舉スヘキ議員數ニ相當スル被選舉人ノ氏名ヲ連記シテ投函スヘシ但シ議
員定數十人以上ノ學校組合ニ在リテハ被選舉人一人ノ氏名ヲ記載スヘシ

投票用紙ハ管理者ノ定ムル所ニ依リ一定ノ式ヲ用ウヘシ

第十五條 左ノ投票ハ無効トス但シ第二號、第四號又ハ第五號ニ該當スルモノハ其ノ部分ノミ無効トス

- 一 成規ノ用紙ヲ用キサルモノ
- 二 現ニ組合議員ノ職ニ在ル者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 三 記載ノ人員選舉スヘキ定數ニ過キタルモノ又ハ第十四條第二項但書ノ場合ニ於テ一票中二人以上ノ被選舉人ノ
氏名ヲ記載シタルモノ
- 四 被選舉人ノ何人タルカヲ確認シ難キモノ
- 五 被選舉權ナキ者ノ氏名ヲ記載シタルモノ
- 六 被選舉人ノ氏名ノ外他事ヲ記入シタルモノ但シ爵位、職業、身分、住所又ハ敬稱ノ類ヲ記入シタルモノハ此ノ
限ニ在ラス
- 七 被選舉人ノ氏名ヲ自書セサルモノ

第十六條 投票ノ拒否及效力ハ選舉立會人ノ意見ヲ聽キ管理者之ヲ決定ス

第十七條 組合會議員ノ選舉ハ有效投票ノ多數ヲ得タル者ヲ以テ當選トス
當選者ヲ定ムルニ當リ得票ノ數同シキトキハ年長者ヲ取り年同シキトキハ管理者抽籤シテ之ヲ定ム

第十八條 管理者ハ選舉錄ヲ調製シテ選舉ノ願末ヲ記載シ選舉ヲ終リタル後之ヲ朗讀シ選舉立會人ト共ニ之ニ署名ス
ヘシ

選舉錄ハ投票其ノ他ノ關係書類ト共ニ選舉及當選ノ效力確定スルニ至ル迄之ヲ保存スヘシ

第十九條 當選者定マリタルトキハ管理者ハ直ニ當選者ニ當選ノ旨ヲ告知スヘシ
當選者當選ヲ辭セムトスルトキハ當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ五日以内ニ之ヲ管理者ニ申立ツヘシ
官吏ニシテ當選シタル者ハ所屬長官ノ許可ヲ受ケタルニ非サレハ之ニ應スルコトヲ得ス

前項ノ官吏當選ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ十日以内ニ之ニ應スヘキ旨ヲ管理者ニ申出テサルトキハ當選ヲ辭シタルモ

ノト看做ス

學校組合ニ對シ請負ヲ爲ス者若ハ其ノ支配人又ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人ニシテ當選シタル者ハ其ノ請負ヲ罷メ又ハ請負ヲ爲ス者ノ支配人若ハ主トシテ同一ノ行爲ヲ爲ス法人ノ無限責任社員、役員若ハ支配人タルコトナキニ至ルニ非サレハ當選ニ應スルコトヲ得ス

前項ニ規定スル者第二項ノ期限前ニ其ノ旨ヲ管理者ニ申立テサルトキハ其ノ當選ヲ辭シタルモノト看做ス

第五項ノ役員トハ取締役、監査役及之ニ準スヘキ者竝ニ清算人ヲ謂フ

第二十條 組合會議員ノ當選ヲ辭シタル者アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第十七條ノ規定ヲ準用ス

第二十一條 選舉ヲ終リタルトキハ管理者ハ直ニ選舉録ノ謄本ヲ添ヘ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第十九條第二項ノ期間ヲ經過シタルトキハ管理者ハ當選者ノ住所、氏名ヲ告示シ併セテ之ヲ第一次監督官廳ニ報告スヘシ

第二十二條 選舉ノ規定ニ違反ノ事實アルトキハ選舉ノ結果ニ異動ヲ生スル虞アル場合ニ限り道知事ハ選舉又ハ當選ヲ取消スヘシ

前項ノ規定ニ依リ選舉ヲ取消シタル場合ニ於テ當選ニ異動ヲ生スル虞ナキ者ヲ區分シ得ルトキハ其ノ者ニ限り當選ヲ失フコトナシ

選舉ノ規定ニ違反ノ事實アリト認ムルトキハ選舉人ハ當選者定マリタル日ヨリ五日以内ニ其ノ事由ヲ道知事ニ申立テ第一項ノ處分ヲ求ムルコトヲ得

第二十三條 當選ノ取消アリタルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ補フヘキ當選者ヲ定ムヘシ此ノ場合ニ於テハ第十七條ノ規定ヲ準用ス

朝鮮地方選舉取締規則ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタルトキ亦前項ニ同シ但シ選舉期日ヨリ一年ヲ過キタル後當選

無効ト爲リタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ於テハ組合會議員闕員ト看做ス

第二十三條ノ二 當選者ナキトキ、當選者ナキニ至リタルトキ又ハ當選者其ノ選舉ニ於ケル議員ノ定數ニ達セサルトキ若ハ定數ニ達セサルニ至リタルトキハ更ニ選舉ヲ行フヘシ

選舉ノ取消アリタルトキ亦前項ニ同シ

第二十四條 組合會議員被選舉權ヲ有セサル者ナルトキ又ハ第十九條第五項ニ掲グル者ナルトキ其ノ職ヲ失フ其ノ被選舉權ノ有無又ハ第十九條第五項ニ掲グル者ニ該當スルヤ否ハ組合會議員カ左ノ各號ノ一ニ該當スルニ因リ被選舉權ヲ有セサル場合ヲ除クノ外管理者之ヲ決定スヘシ

一 禁治産者又ハ准禁治産者ト爲リタルトキ

二 破産者ト爲リタルトキ

三 禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

前項ノ決定ヲ受ケタル者其ノ決定ニ不服アルトキハ決定アリタル日ヨリ五日以内ニ道知事ニ申立ツルコトヲ得

前項ノ申立ハ第一次監督官廳ヲ經由スヘシ

第二十五條 組合會議員ハ選舉若ハ當選ノ取消アル迄、朝鮮地方選舉取締規則ノ規定ニ依リ當選無効ト爲ル迄又ハ前條第一項ノ決定確定シ若ハ前條第二項ノ異議ノ決定アル迄ハ會議ニ列席シ議事ニ參與スルノ權ヲ失ハス

第二十六條 道知事選舉若ハ當選ヲ取消シ又ハ第十一條ノ異議ノ決定ヲ爲シタルトキハ直ニ之ヲ告示スヘシ

組合會第十一條ノ異議ノ決定ヲ爲シタルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ告示スヘシ

朝鮮地方選舉取締規則ノ規定ニ依リ當選無効ト爲リタルトキハ管理者ハ直ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ

第二十七條 組合員ハ組合ノ事務ニ關スル書類ヲ檢閲シ事務ノ管理、議決ノ執行及出納ヲ檢査スルコトヲ得

第二十八條 組合會ハ管理者ヲ以テ議長トス管理者故障アルトキハ年長ノ議員議長ノ職務ヲ代理ス年齢同シキトキハ抽籤ヲ以テ之ヲ定ム

第二十九條 管理者及其ノ委任又ハ囑託ヲ受ケタル者ハ會議ニ列席シテ議事ニ參與スルコトヲ得但シ議決ニ加ハルコトヲ得ス

第三十條 組合會ハ管理者之ヲ招集ス但シ輕易ナル事件ニ付テハ會議ヲ開カス書面ヲ以テ議員ノ意見ヲ聽キ其ノ三分ノ二以上ノ同意アルトキハ之ヲ議決ト看做スコトヲ得

招集及會議ノ事件ハ開會ノ日ヨリ少クモ三日前ニ議員ニ之ヲ通知スヘシ但シ急施ヲ要スル場合ハ此ノ限ニ在ラス
組合會開會中急施ヲ要スル事件アルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ其ノ會議ニ付スルコトヲ得
組合會ハ管理者之ヲ開閉ス

第三十一條 削除

第三十二條 削除

第三十三條 組合會ハ議員定數ノ半數以上出席スルニ非サレハ會議ヲ開クコトヲ得但シ第三十五條ノ規定ニ依ル除斥ノ爲半數ニ滿チサルトキ、同一ノ事件ニ付招集再會ニ至ルモ仍半數ニ滿チサルトキ又ハ招集ニ應スルモ出席議員定數ヲ闕キ議長ニ於テ出席ヲ催告スルモ仍半數ニ滿チサルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三十四條 組合會ノ議事ハ過半數ヲ以テ決ス可否同數ナルトキハ議長ノ決スル所ニ依ル

組合ノ分合、廢止、組合區域ノ變更又ハ規約ノ變更ニ關スル議決ハ議員定數ノ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス
第三十五條 議長及議員ハ自己又ハ父母、祖父母、妻、子、孫、兄弟姉妹ノ一身上ニ關スル事件ニ付テハ其ノ議事ニ參與スルコトヲ得但シ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ會議ニ出席シ發言スルコトヲ得

第三十六條 議長ハ會議ヲ總理シ會議ノ順序ヲ定メ其ノ日ノ會議ヲ開閉シ議場ノ秩序ヲ保持シ必要アリト認メタルトキハ議員ノ發言ヲ禁止シ之ヲ取消サシメ又ハ議場外ニ退去ヲ命スルコトヲ得

第三十七條 議長ハ會議録ヲ調製シ會議ノ顛末及出席議員ノ氏名ヲ記載スヘシ

會議録ハ議長及出席議員二人以上之ニ署名スルコトヲ要ス其ノ議員ハ組合會ニ於テ之ヲ定ムヘシ

第三十八條 組合會ノ會議及傍聽人取締ニ關スル事項ハ組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム

第三十八條ノ二 組合員ノ數寡少ナル組合ニ於テハ組合規約ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フルコトヲ得

道知事必要アリト認ムルトキハ朝鮮總督ノ許可ヲ受ケ特別ノ事情アル組合ヲシテ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代ヘシムルコトヲ得

第三十八條ノ三 組合員ノ總會ニ出席スヘキ組合員ハ獨立ノ生計ヲ營ム年齢二十五年以上ノ男子ニシテ其ノ組合ノ組合費ヲ納ムル者トス但シ組合規約ヲ以テ別段ノ定ヲ爲スコトヲ得

第三十八條ノ四 組合員ノ總會ニ關シテハ組合會ニ關スル本令ノ規定ヲ準用ス

第三章 組合吏員

第三十九條 組合ノ吏員ハ出納役及書記トス

出納役ハ組合ノ出納事務ヲ掌ル

出納役ヲ置カサル場合ニ於テハ管理者ハ書記トシテ出納事務ヲ掌ラシムルコトヲ得

出納役ヲ置カサル場合ニ於テハ出納役ニ關スル規定ハ之ヲ出納事務ヲ掌ル者ニ準用ス

第四十條 管理者故障アルトキハ出納役之ヲ代理シ管理者、出納役共ニ故障アルトキハ上席書記之ヲ代理ス

出納役故障アルトキハ管理者其ノ事務ヲ行ヒ又ハ書記ヲシテ之ヲ代理セシムヘシ

第四十一條 削除

第四章 組合ノ財務

第四十二條 管理者ハ毎會計年度組合費其ノ他一切ノ收入ヲ歲入トシ一切ノ經費ヲ歲出トシ歲入歲出豫算ヲ調製シ遲

クモ年度開始ノ一月前ニ組合會ノ議決ヲ經ヘシ
豫算ハ必要アルトキハ經常臨時ノ二部ニ分ツヘシ

豫算ハ之ヲ款項ニ区分シ且必要アルモノハ項ニ其ノ内譯ヲ附スヘシ

豫算ヲ組合會ニ提出スルトキハ管理者ハ併セテ豫算説明書及財産明細表ヲ提出スヘシ

第四十三條 管理者ハ組合會ノ議決ヲ經テ既定豫算ノ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得

豫算ハ年度經過後ニ於テ追加又ハ更正ヲ爲スコトヲ得ス

第四十四條 削除

第四十五條 組合會ニ於テ豫算ヲ議決シタルトキハ管理者ハ直ニ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示シ豫算ノ騰本ヲ出納役ニ交付スヘシ

第四十六條 歳入ノ年度所屬ハ左ノ区分ニ依ル

- 一 納期ノ一定シタル收入ハ其ノ納期ノ末日ノ屬スル年度
- 二 隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發スルモノハ之ヲ發シタル日ノ屬スル年度
- 三 隨時ノ收入ニシテ納入告知書ヲ發セサルモノハ領收ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、寄附金、起債收入ハ年度經過後ト雖出納閉鎖期迄ハ之ヲ豫算シタル年度ノ歳入ト爲スコトヲ得

第四十七條 歳出ノ所屬年度ハ左ノ区分ニ依ル

- 一 費用辨償、報酬、給料其ノ他ノ諸給與及備入料ノ類ハ其ノ支給スヘキ事實ノ生シタル日ノ屬スル年度但シ支拂期日ノ定アルモノハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
- 二 通信運搬費、土木建築費、物件ノ購入代價其ノ他契約ニ依ル支拂金ハ契約ヲ爲シタル日ノ屬スル年度但シ契約ニ依リ定メタル支拂期日アルトキハ其ノ支拂期日ノ屬スル年度
- 三 前二號ニ掲クルモノヲ除クノ外ハ總テ支拂命令ヲ發シタル日ノ屬スル年度但シ補助金、缺損補填ハ其ノ決定アリタル日ノ屬スル年度ノ歳出ト爲スコトヲ得

リタル日ノ屬スル年度ノ歳出ト爲スコトヲ得

第四十八條 組合費ヲ徵收セムトスルトキハ管理者ハ納入義務者ニ對シ納期日ヨリ少クモ十日前ニ其ノ納金額、納期日及納付場所ヲ記載シタル納入告知書ヲ發スヘシ

使用料又ハ手数料ヲ徵收セムトスルトキハ現金即納ノ場合ヲ除クノ外納入告知書ヲ發スヘシ

第四十九條 組合費ノ賦課ニ關スル異議ハ納入告知書ヲ交付ヲ受ケタル日ヨリ六十日以内ニ管理者ニ之ヲ申立ツヘシ

營造物ヲ使用スル權利ニ關シ異議アル者ハ其ノ處分アリタル日ヨリ三十日以内ニ之ヲ管理者ニ申立ツルコトヲ得

前二項ノ異議ハ之ヲ組合會ノ決定ニ付スヘシ決定ヲ受ケル者其ノ決定ニ異議アルトキハ決定ヲ受ケタル日ヨリ三日

内ニ第一次監督官廳ニ之ヲ申立ツルコトヲ得管理者ニ於テ異議アルトキ亦同シ

第一項及前項ノ規定ハ過料、使用料、手数料ノ徵收又ハ夫役現品ノ賦課ニ關シ之ヲ準用ス

前各項ノ異議ノ申立ハ文書ヲ以テ之ヲ爲スヘシ

第五十條 各年度ノ經費ハ其ノ年度ノ收入ヲ以テ之ヲ支辨スヘシ

年度經過後ニ至リ歳入ヲ以テ歳出ニ充ツルニ足ラサルトキハ組合會ノ議決ヲ經テ第一次監督官廳ノ許可ヲ受ケ翌年度

ノ歳入ヲ繰上ケ之ニ充用スルコトヲ得

第五十一條 豫算ニ定メタル各款ノ金額ハ彼此流用スルコトヲ得ス豫算各項ノ金額ハ組合會ノ議決ヲ經テ之ヲ流用スルコトヲ得

豫備費ハ組合會ノ否決シタル費途ニ充ツルコトヲ得ス

第五十二條 支出ハ債主又ハ其ノ代理人ニ對スルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五十三條 出納役ハ管理者又ハ監督官廳ノ命令アルニ非サレハ支拂ヲ爲スコトヲ得ス命令ヲ受クルモ支出ノ豫算ナク又ハ豫備費支出、費目流用其ノ他本令ノ規定ニ依リ支出ヲ爲スコトヲ得サルトキ亦同シ

第五十四條 遠隔ノ地ニ於テ支拂ヲ必要トスル經費ハ現金前渡ヲ爲スコトヲ得

前項ノ現金前渡ハ組合吏員以外ノ者ニ之ヲ爲スコトヲ得
第五十五條 左ノ經費ハ概算拂ヲ爲スコトヲ得

一 旅費

二 訴訟費用

第五十六條 官報其ノ他前金支拂ニ非サレハ購入又ハ借入ノ契約ヲ爲シ能ハサルモノニ限り前金拂ヲ爲スコトヲ得
第五十七條 歳入ノ課納過納ト爲リタル金額ノ拂戻ハ各之ヲ收入シタル歳入ヨリ支拂フヘシ
歳出ノ課拂過渡ト爲リタル金額、現金前渡、前金拂及概算拂ノ返納ハ各之ヲ支拂ヒタル經費ノ定額ニ戻入スヘシ

第五十八條 組合ノ出納ハ翌年度五月三十一日ヲ以テ閉鎖ス
管理者ハ出納閉鎖後二月内ニ決算ヲ組合會ノ認定ニ付スヘシ

決算ハ豫算ト同一ノ区分ニ依リ之ヲ調製シ豫算ニ對スル過不足ノ説明ヲ附スヘシ

第五十九條 決算ハ其ノ認定ニ關スル組合會ノ議決ト共ニ之ヲ第一次監督官廳ニ報告シ且其ノ要領ヲ告示スヘシ
決算ノ認定ニ關スル會議ニ於テハ管理者ハ議長ノ職務ヲ行フコトヲ得ス此ノ場合ニ於テハ第二十八條ノ規定ヲ準用ス

第六十條 出納閉鎖後ノ收入支出ハ之ヲ現年度ノ歳入歳出ト爲スヘシ第五十七條ノ拂戻金、戻入金ノ出納閉鎖後ニ係ルモノ亦同シ

第六十一條 各年度ニ於テ歳計ニ剩餘アルトキハ翌年度ノ歳入ニ編入スヘシ但シ組合規約ノ規定又ハ組合會ノ議決ニ依リ剩餘金ノ全部又ハ一部ヲ基本財産ニ編入スル場合ニ於テハ繰越ヲ要セス之カ支出ヲ爲スコトヲ得

第六十二條 繼續費ハ毎年度ノ支拂殘額ヲ繼續年度ノ終迄繰越使用スルコトヲ得

第六十三條 工事ノ請負、物件ノ賣買貸借及勞力ノ供給ハ競争入札ニ付スヘシ但シ臨時急施ヲ要スルトキ又ハ組合會ノ同意ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第六十四條 組合ノ出納ハ毎月一回管理者之ヲ検査シ且毎年度二回以上組合會ニ於テ互選シタル二人以上ノ委員其ノ

検査ヲ行フヘシ

第六十五條 組合ハ其ノ歳入歳出ニ屬スル公金ノ受拂ニ郵便貯金ノ法ニ依ルコトヲ得

第六十六條 組合ハ現金ノ出納及保管ノ爲組合金庫ヲ置クコトヲ得

金庫事務ノ取扱ヲ爲サシムヘキ銀行ハ組合會ノ議決ヲ經道知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第六十七條 金庫ハ出納役ノ通知アルニ非サレハ現金ノ出納ヲ爲スコトヲ得ス

第六十八條 金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ノ保管スル現金ハ組合ノ歳入歳出ニ屬スルモノニ限り支出ニ妨ケナキ限度ニ於テ組合ハ其ノ運用ヲ許スコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ハ組合ノ定ムル所ニ依リ利子ヲ組合ニ納付スヘシ

第六十九條 組合ハ金庫事務ノ取扱ヲ爲ス銀行ヨリ擔保ヲ徵スヘシ其ノ種類、價格及程度ニ關シテハ道知事ノ許可ヲ受ケ之ヲ定ムヘシ

第七十條 管理者ハ定期及臨時ニ金庫ノ現金及帳簿ヲ検査スヘシ

附 則

第七十一條 本令ハ學校組合令施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス(大正三年四月一日ヨリ施行)

第七十二條 本令施行ノ際現ニ水道、屠獸場、共同墓地又ハ火葬場ノ經營ヲナス學校組合ハ當分ノ内其ノ經營ヲ繼續スルコトヲ得

第七十三條 本令施行前設立シタル學校組合ハ本令施行ノ日ヨリ六月内ニ組合規約ヲ變更シ許可ヲ受クヘシ
前項ノ許可ヲ受クル迄ハ従前ノ組合規約ハ學校組合令及本令ニ抵触セサル限り其ノ效力ヲ有ス

第七十四條 本令施行ノ際現ニ管理者以外ノ組合吏員ニシテ會計役ノ職ニ在ル者ハ出納役ニ其ノ他ハ書記ニ本令ニ依リ任セラレタルモノト看做ス

第七十五條 本令施行ノ際現ニ組合會議員ノ職ニ在ル者ハ従前ノ規定ニ依ル最近ノ定期改選期日ニ於テ其ノ職ヲ失フ

本令施行後其ノ改選期日前ニ於テ選舉セラレタル補闕議員ニ付亦同シ

第七十六條 本令施行前ノ選舉ニ關スル選舉人名簿又ハ當選若ハ當選ノ效力ニ付テハ從前ノ規定ニ依ル
第七十七條 本令施行前組合費、使用料ノ賦課徵收及財産又ハ營造物ヲ使用スル權利ニ關シタル異議ノ申立ハ從前ノ規定ニ依リ處置スヘシ

附 則 (昭四第八六號)

本令ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭五第一〇七號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際現ニ組合會議員ノ職ニ在ル者ノ任期ハ第九條ノ規定ニ拘ラス從前ノ規定ニ依ル

● 學校組合規約準則

大三、一
總訓第一號

改正 大二三第二一號、昭六第四七號

- 第一條** 本組合ハ何學校組合ト稱ス
- 第二條** 本組合ノ區域ハ何道何郡何邑面ノ内何町洞里何郡何邑面(及何面ノ内何町洞里)トス
- 第三條** 本組合ノ公告ハ組合ノ揭示場ニ揭示ス
- 第四條** 年齢二十五年以上ノ男子ニシテ獨立ノ生計ヲ營ミ何月以上引續キ組合費(何圓以上)ヲ納ムル者ハ組合會議員ノ選舉權ヲ有ス但シ左ニ掲クル者ハ此ノ限ニ在ラス
 - 一 禁治產者及準禁治產者
 - 二 破產者ニシテ復權ヲ得サル者
 - 三 六年ノ懲役又ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタル者
 - 四 六年未滿ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至ル迄ノ者

五 陸海軍軍人トシテ現役中ノ者(未タ入營セサル者及歸休下士官兵ヲ除ク)又ハ戰時事變ニ際シ召集中ノ者並ニ志願ニ依リ國民軍ニ編入中ノ者
 家督相續人ノ組合費負擔期間ニ付テハ被相續人ノ組合費負擔期間ヲ通算ス
 選舉權ヲ有スル者組合費滯納處分中ハ選舉權ヲ行使スルコトヲ得ス
 (學校組合令施行規則第三十八條ノ二ノ規定ニ依リ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フル組合ニ在リテハ本條ヲ左ノ如ク規定ス)

第四條 本組合ニ於テハ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フ

第五條 組合會議員ノ選舉權ノ有スル者ハ被選舉權ヲ有ス但シ左ニ掲クル者ニシテ在職中ノモノ及前條第三項ニ規定スル者ハ此ノ限ニ在ラス

- 一 所屬道郡島ノ官吏、待遇官吏及吏員
- 二 本組合ノ管理者及吏員
- 三 判事、檢事及警察官吏
- 四 小學校ノ教員

(學校組合令施行規則第三十八條ノ二ノ規定ニ依リ組合員ノ總會ヲ以テ組合會ニ代フル組合ニ在リテハ本條規定ノ要ナシ但シ學校組合令施行規則第三十八條ノ三但書ノ規定ニ依リ組合員ノ總會ニ出席スヘキ組合員ノ資格要件ニ付別段ノ定ヲ爲ス組合ニ在リテハ第五條トシテ之ヲ規定ス)

第六條 本組合ニ出納役一人及書記何人ヲ置ク(出納役及書記ヲ置カサルトキハ本條ヲ除ク)出納役ハ名譽職(有給トス)

書記ハ有給(名譽職)トス

第七條 有給ノ管理者及吏員在職年一年以上ニシテ退職シルトキハ退職給與金トシテ退職當時ノ給料月額ニ相當スル

金額ニ在職年ノ年數ヲ乗シタル金額ヲ一時支給ス但シ懲戒ニ依リ解職セラレタルトキハ此ノ限ニ在ラス
有給ノ管理者及吏員在職中死亡シタルトキハ死亡給與金トシテ死亡當時ノ給料月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數
ヲ乘シタル金額及死亡當時ノ給料四月分ニ相當スル金額ヲ其ノ遺族ニ一時支給ス

死亡給與金ヲ支給スヘキ遺族及其ノ順位ハ官吏死亡賜金給與ノ例ニ依ル

退職給與金又ハ死亡給與金ノ基礎トナルヘキ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職給與金ノ支給ヲ受ケタル者再就職シタルトキハ之カ在職年ハ再就職ノ月ヨリ起算ス但シ退職シタル月ニ於テ再
就職シタルトキハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス(有給ノ管理者又ハ吏員ヲ置カサルトキハ本本條ヲ除ク)

第八條 組合費ハ戸別割トス

戸別割ハ獨立ノ生計ヲ營ム組合員ニ對シ其ノ資産所得及生計ノ程度ニ依リ之ヲ賦課ス

**第九條 戸別割ノ賦課額(又ハ等級、賦課率)ハ毎年組合會ノ議決ヲ以テ之ヲ定ム但シ議決後組合費負擔ノ義務發生
シタルトキハ管理者之ヲ定ム**

第十條 戸別割ハ左ノ四期ニ分チ毎期初日ノ現在ニ依リ之ヲ賦課ス

第一期 四月一日ヨリ六月三十日

第二期 七月一日ヨリ九月三十日

第三期 十月一日ヨリ十二月三十一日

第四期 一月一日ヨリ三月三十一日

**第十一條 賦課期日後組合費負擔ノ義務發生シタルトキハ隨時之ヲ賦課ス此ノ場合ニ在リテハ戸別割ハ其ノ期ノ分ニ
限リ負擔義務發生ノ月ヨリ月割ヲ以テ賦課ス**

第十二條 戸別割ノ納期ハ賦課期日後何日以内トス

隨時賦課ニ係ル組合費及使用料ノ納期ハ管理者之ヲ定ム

**第十三條 管理者ハ特別ノ事情アル者ニ對シ組合費及使用料ノ納入延期ヲ許スコトヲ得其ノ年度ヲ越ユル場合ハ組合
會ノ議決ヲ經ヘシ**

組合ハ特別ノ事情アル者ニ限リ組合費及使用料ヲ減免スルコトヲ得

第十四條 夫役現品ハ戸別割ヲ準率トシ且之ヲ金額ニ算出シテ賦課ス

學藝、美術及手工ニ關スル勞役ハ夫役トシテ賦課セス

夫役ヲ賦課セラレタル者ハ本人自ラ之ニ當リ又ハ適當ノ代人ヲ出スコトヲ得

夫役現品ハ金錢ヲ以テ之ヲ代フルコトヲ得

第一項及前項ノ規定ハ急迫ノ場合ニ賦課スル夫役現品ニ付テハ之ヲ適用セス

急迫ノ場合ニ賦課シタル夫役現品ノ履行ヲ爲ササルトキハ更ニ之ヲ金額ニ算出シ期限ヲ指定シテ納付ヲ命スヘシ

第十五條 組合費及使用料ノ徵收ニ關シテハ國稅徵收法第四條ノ一第四條ノ三乃至第四條ノ五第四條ノ七及第四條ノ

八ヲ準用ス

第十六條 新組合區域内ニ住所ヲ定メタル者ハ二十日以内ニ之ヲ管理者ニ届出ツヘシ住所ニ移動アリタルトキ亦同シ

獨立ノ生計ヲ營ム者前項ノ届出ヲ怠リタルトキハ五圓以下ノ過料ニ處ス

前項ノ處分ハ管理者之ヲ行フ

附 則

組合費賦課前及賦課後何月内ニ行フ選舉ニ付テハ第四條組合費負擔ニ關スル規定ヲ適用セス

●道會議員ノ選舉ニ關スル規程

昭八、二
總訓第五號

第一條 道會議員ノ選舉ハ法令ニ規定スルモノノ外本規程ニ依リ執行スヘシ

第二條 道制施行規則第九條第二項又ハ第四項ノ規定ニ依リ選舉立會人又ハ投票立會人ハ選舉期日(道制施行規則第

十三條ノ規定ニ依リ投票期日ヲ定メタル投票區ニ在リテハ投票期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ選任スヘシ但シ補
闕ノ爲選任スル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 選舉會場又ハ投票所ニハ其ノ門戸ニ標札ヲ掲クヘシ

第四條 投票用紙ハ道知事之ヲ調製シ之ヲ選舉長ニ送付スヘシ

選舉長投票用紙ノ送付ヲ受ケタルトキハ投票期日ノ三日前迄ニ之ヲ投票管理者ニ送付スヘシ投票管理者ハ投票終了
後投票用紙ノ受拂計算書ヲ調製シ不用ノ投票用紙ト共ニ之ヲ選舉長ニ送付スヘシ
不用ト爲リタル投票用紙ハ選舉長之ヲ廢棄スヘシ

第五條 投票記載ノ場所ハ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他ノ不正ノ手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲相
當ノ設備ヲ爲スヘシ

第六條 投票函ハ成ルヘク二重ノ蓋ヲ作り各別ニ鎖鑰シ設クヘシ

第七條 選舉長又ハ投票管理者ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ選舉會場又ハ投票所ニ參會シタル選舉人ノ面前ニ於テ投票
函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後蓋(又ハ内蓋)ヲ鎖スヘシ

第八條 投票函ノ蓋(又ハ内蓋)ヲ鎖シタルトキハ其ノ鑰ハ選舉長又ハ投票管理者ニ於テ之ヲ封筒ニ入レ選舉立會人
又ハ投票立會人ト共ニ封印ヲ爲シ選舉長又ハ投票管理者ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第九條 投票所ニ於テハ假投票函ヲ用ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ假投票函ナルコトヲ標記スヘシ
假投票函ニ付テハ前三條ノ規定ヲ準用ス

第十條 選舉人誤リテ投票用紙ヲ汚損シタルトキハ選舉長又ハ投票管理者ハ其ノ請求ニ依リ前交付ノ分ト引換ニ再交
付ヲ爲スヘシ

第十一條 投票ハ選舉長及選舉立會人又ハ投票管理者及投票立會人ノ面前ニ於テ選舉人ヲシテ自ラ投函セシムヘシ但
シ假投票函ヲ用フル場合ニ於テハ選舉人ヲシテ自ラ投票ヲ糊著シテ投函セシムヘシ

第十二條 選舉人投票前選舉會場又ハ投票所外ニ退去シ又ハ其ノ退出ヲ命セラレタルトキハ選舉長又ハ投票管理者ハ
投票用紙ヲ返付セシムヘシ

第十三條 選舉長又ハ投票管理者ハ投票ヲ終リタルトキハ選舉立會人又ハ投票立會人ト共ニ投票函ノ投票口(及外蓋)
ヲ鎖スヘシ
投票函ノ外蓋ノ鑰ハ第八條ノ例ニ依リ選舉長又ハ投票管理者ニ於テ之ヲ保管スヘシ
假投票函ヲ用フル場合ニ於テ投票ヲ終リタルトキハ投票管理者ハ投票立會人立會ノ上假投票函ヲ開キ總テノ投票ヲ
強靱ナル封筒ニ入レ投票立會人ト共ニ封印ヲ爲スヘシ

第十四條 投票函又ハ假投票函ハ選舉會場又ハ投票所外ニ搬出スルコトヲ得ス但シ投票函ヲ郡守又ハ島司ニ送致スル
場合ハ此ノ限ニ在ラス
前條第三項ノ規定ニ依リ投票ヲ入レタル封筒ハ郡守又ハ島司ニ送致スル場合ヲ除クノ外投票所外ニ搬出スルコトヲ
得ス

第十五條 投票管理者投票函ヲ郡守又ハ島司ニ送致スルトキハ併セテ其ノ鑰ヲ送付スヘシ

第十六條 府又ハ邑ヲ區域トスル選舉區ノ選舉長ハ選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ
計算シタル後之ヲ點檢スヘシ
前項ノ選舉區以外ノ選舉區ノ選舉長ハ選舉立會人立會ノ上各投票區毎ニ投票函又ハ投票ヲ入レタル封筒ヲ開キ投票
ノ總數ト投票録ニ記載シタル投票人ノ總數トヲ計算シタル後總テノ投票ヲ混同シ之ヲ點檢スヘシ

第十七條 投票ヲ點檢スルトキハ選舉長ハ選舉事務ニ從事スル者二人ヲシテ各別ニ同一被選舉人ノ得票數ヲ計算セシ
ムヘシ

第十八條 前條ノ計算終リタルトキハ選舉長ハ各被選舉人ノ得票數ヲ朗讀スヘシ

第十九條 選舉長ハ投票ノ有效無效ヲ區別シ各別ニ之ヲ封筒ニ入レ選舉立會人ト共ニ封印ヲ爲スヘシ

第二十條 投票録及選舉録ハ別記記載例ニ依リ之ヲ調製スヘシ

- 第二十一條 選舉長當選者ニ當選ノ告知ヲ爲シタルトキハ其ノ到達シタル日ヲ證スル書面ヲ徴スヘシ
- 第二十二條 道制施行規則第二十條第二項、第三項、第六項又ハ第八項ノ規定ニ依ル申立ハ文書ヲ以テ爲サシムヘシ
選舉長前項ノ申立ヲ受ケタルトキハ其ノ文書ノ餘白ニ之ヲ受理シタル年月日ヲ記載シ直ニ道知事ニ進達スヘシ
- 第二十三條 選舉長ハ當選告知後道制施行規則第二十條第二項又ハ第三項ノ期間内ニ當選ヲ辭スル旨ノ申立ナカリシトキハ直ニ其ノ旨ヲ道知事ニ報告スヘシ
(別記省略)

●府會議員、邑會議員及面協議會員ノ選舉ニ關スル規程

昭六、二
總訓第六號

- 第一條 府會議員、邑會議員及面協議會員ノ選舉ハ他ノ法令中別段ノ定アルモノノ外本規程ニ依リ執行スヘシ
- 第二條 府制施行規則第六條又ハ邑面制施行規則第五條ノ規定ニ依リ選舉人名簿ヲ關係者ノ縦覽ニ供セントスルトキハ府尹又ハ邑面長ハ縦覽開始ノ日ヨリ少クトモ三日前ニ其ノ旨ヲ告示スヘシ
- 第三條 府制施行規則第九條又ハ邑面制施行規則第八條ノ規定ニ依リ選舉人名簿ノ調製、縦覽、確定及異議ノ決定ニ關スル期日及期間ヲ定メタルトキハ道知事又ハ郡守島司ハ直ニ之ヲ告示スヘシ
- 第四條 府制施行規則第十二條第二項若ハ第四項ノ規定ニ依リ選舉立會人若ハ投票立會人又ハ邑面制施行規則第十一條第二項ノ規定ニ依リ選舉立會人ハ選舉期日ヨリ少クトモ三日前ニ之ヲ選任シ別記様式ニ依リ選任狀ヲ本人ニ交付スヘシ但シ臨時急施スル場合ハ適宜ノ措置ヲ爲スコトヲ得
- 第五條 府尹投票立會人ヲ選任シタルトキハ直ニ之ヲ投票分會長ニ通知スヘシ
- 第六條 選舉會場(又ハ投票分會場)ニハ其ノ門戸ニ標札ヲ掲クヘシ
- 第七條 選舉會場(又ハ投票分會場)ニ於ケル選舉人ノ出入口ハ成ルヘク之ヲ各別ト爲スヘシ
- 第八條 府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長必要アリト認ムルトキハ到著番號札ヲ選舉人ニ交付スルコトヲ得

第九條 投票記載ノ場所ハ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他ノ不正ノ手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲相
當ノ設備ヲ爲スヘシ

第十條 投票函ハ成ルヘク二重ノ蓋ヲ作り各別ニ鎖鑰ヲ設クヘシ

第十一條 府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長ハ投票ヲ爲サシムルニ先チ選舉會場(又ハ投票分會場)ニ參會シタル選舉
人ノ面前ニ於テ投票函ヲ開キ其ノ空虛ナルコトヲ示シタル後蓋(又ハ内蓋)ヲ鎖スヘシ

第十二條 投票函ノ蓋(又ハ内蓋)ヲ鎖シタルトキハ其ノ鑰ハ府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長ニ於テ之ヲ封筒ニ入
レ選舉立會人(又ハ投票立會人)ト共ニ封印ヲ爲シ府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長之ヲ保管スヘシ

第十三條 府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長ハ選舉立會人(又ハ投票立會人)ノ面前ニ於テ選舉人ヲ選舉人名簿(又ハ
選舉人名簿ノ抄本)ニ對照シ且成ルヘク選舉人ヲシテ別記様式ニ依リ投票簿ニ捺印セシメタル後投票用紙ヲ交付ス
ヘシ

第十四條 選舉人誤リテ投票用紙ヲ汚損シタルトキハ府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長ハ其ノ請求ニ依リ前交付ノ分
ト引換ニ再交付ヲ爲スヘシ

第十五條 投票ハ府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長及選舉立會人(又ハ投票立會人)ノ面前ニ於テ選舉人ヲシテ自ら投
函セシムヘシ

第十六條 選舉人投票前選舉會場(又ハ投票分會場)外ニ退出シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ府尹(又ハ投票分會
長)又ハ邑面長ハ投票用紙ヲ返付セシムヘシ

第十七條 投票ヲ終リタルトキハ府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長ハ選舉立會人(又ハ投票立會人)ト共ニ投票函ノ投
票口(及外蓋)ヲ鎖スヘシ

第十八條 投票函ノ外蓋ノ鑰ハ第十二條ノ例ニ依リ府尹(又ハ投票分會長)又ハ邑面長之ヲ保管スヘシ

第十九條 投票函ハ其ノ閉鎖後府尹ニ送致スル場合ノ外之ヲ會場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十九條 府尹又ハ邑面長ハ投票ノ當日(府ニ於テ投票分會ヲ設ケルトキハ總テノ投票函ノ送致ヲ受ケタル後)選舉立會人立會ノ上投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算スヘシ

第二十條 府尹又ハ邑面長ハ選舉立會人ト共ニ投票點ヲ點檢スヘシ

第二十一條 投票ヲ點檢スルトキハ府尹又ハ邑面長ハ選舉事務ニ從事スル者二人ヲシテ各別ニ同一被選舉人ノ得票ヲ別記様式ニ依ル得票簿ニ記入シ其ノ得票數ヲ計算セシムヘシ

第二十二條 前條ノ計算終リタルトキハ府尹又ハ邑面長ハ各被選舉人ノ得票ヲ朗讀スヘシ

第二十三條 府尹又ハ邑面長ハ投票ノ有效無効ヲ區別シ各之ヲ封筒ニ入レ選舉立會人ト共ニ封印ヲ施スヘシ

第二十四條 府制施行規則第二十一條第一項又ハ邑面制施行規則第二十條第一項ノ規定ニ依ル當選ノ告知ハ別記様式ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第二十五條 選舉人名簿及府會議員ノ選舉人名簿ノ抄本ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十六條 投票用紙ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第二十七條 選舉錄及投票錄ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

(別記省略)

● 學校評議員ノ選舉ニ關スル規程

昭六、四
總訓第一五號

第一條 學校評議員ノ選舉ニ關シテハ他ノ法令中別段ノ定アルモノノ外本規程ニ依ルヘシ

第二條 選舉會場ニハ其ノ門戸ニ標札ヲ掲クヘシ

第三條 投票記載ノ場所ハ選舉人ノ投票ヲ視ヒ又ハ投票ノ交換其ノ他ノ不正ノ手段ヲ用フルコト能ハサラシムル爲相當ノ設備ヲ爲スヘシ

第四條 投票函ニハ領論ヲ設クヘシ

第五條 投票函ノ蓋ヲ領シタルトキハ其ノ論ハ邑面長ニ於テ之ヲ保管スヘシ

第六條 選舉人誤リテ投票用紙ヲ汚損シタルトキハ邑面長ハ選舉人ノ請求ニ依リ前交付ノ分ト引替ニ再交付ヲ爲スヘシ

第七條 投票ハ邑面長ノ面前ニ於テ選舉人ヲシテ自ラ之ヲ投函セシムヘシ

第八條 選舉人投票前選舉會場外ニ退去シ又ハ退出ヲ命セラレタルトキハ邑面長ハ投票用紙ヲ返付セシムヘシ

第九條 投票函ハ選舉終了ニ至ル迄之ヲ選舉會場外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十條 邑面長ハ投票ノ當日投票函ヲ開キ投票ノ總數ト投票人ノ總數トヲ計算シタル後投票ノ點檢ヲ爲スヘシ

第十一條 邑面長ハ投票ノ有效(連記投票ニ在リテハ一部無効ノ投票ヲ含ム)無効ヲ區別シ各別ニ之ヲ封筒ニ入レ封印ヲ施スヘシ

第十二條 選舉錄ハ別記様式ニ依リ之ヲ調製スヘシ

第十三條 朝鮮學校費令施行規則第九條第一項ノ規定ニ依ル當選ノ告知ハ別記様式ニ依リ之ヲ爲スヘシ

第十四條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

第十五條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

第十六條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

第十七條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

第十八條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

第十九條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

第二十條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

第二十一條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

第二十二條 郡守又ハ邑面長ハ直ニ當選者ノ住所及氏名ヲ告示シ且之ヲ郡守又ハ邑面長ニ報告スヘシ

(別記省略)

朝鮮地方選舉取締規則

昭四、九
總令第八三號

改正 六第二一號、八第一八號、一〇第一七號

第一條 本令ハ道會議員、府會議員、邑會議員、學校評議會員及學校組合會議員ノ選舉（以下單ニ選舉ト稱ス）ニ付之ヲ適用ス

第二條 選舉ヲ管理スル府尹、郡守、島司、邑面長又ハ學校組合管理者（以下單ニ選舉管理者ト總稱ス）ハ選舉會場（以下單ニ會場ト稱ス）ノ取締ヲ爲スルコトヲ得但シ會場ノ事務ニ從事スル者、會場ヲ監視スル職權ヲ有スル者、警察官吏又ハ選舉管理者ニ於テ必要アリト認メタル者ハ此ノ限ニ在ラス

第三條 會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムルコトヲ得

第四條 會場ニ於テ演說討論ヲ爲シ若ハ喧騒ニ涉リ又ハ投票ニ關シ協議若ハ勸誘ヲ爲シ其ノ他會場ノ秩序ヲ紊ル者アルトキハ選舉管理者ハ之ヲ制止シ命ニ從ハサルトキハ之ヲ會場外ニ退出セシムルコトヲ得但シ選舉管理者ハ會場ノ秩序ヲ紊ルノ虞ナシト認ムル場合ニ於テ投票ヲ爲サシムルコトヲ妨ケス

第五條 道會議員、府會議員又ハ邑會議員ノ候補者タラントスル者ハ選舉期日ノ告示アリタル日ヨリ道會議員ニ在リテハ選舉期日前三日迄ニ、府會議員又ハ邑會議員ニ在リテハ選舉期日前三日迄ニ其ノ旨ヲ選舉管理者ニ届出ツ

道會議員ノ選舉人又ハ府會議員若ハ邑會議員ノ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者他人ヲ道會議員ノ候補者又ハ府會議員若ハ邑會議員ノ候補者ト爲サントスルトキハ選舉期日ノ告示アリタル日ヨリ道會議員ノ候補者ニ在リテハ選舉期日前三日迄ニ、府會議員又ハ邑會議員ノ候補者ニ在リテハ選舉期日前三日迄ニ選舉管理者ニ推薦ノ届出ヲ爲スコトヲ得

議員候補者タルコトヲ辭シ又ハ其ノ推薦ヲ取消シタルトキハ直ニ其ノ旨ヲ選舉管理者ニ届出ツヘシ此ノ場合ニ於テハ前項ノ規定ヲ準用ス

第四條ノ三 前條第一項ノ議員候補者又ハ前條第二項ニ規定スル推薦者（推薦者數人アルトキハ其ノ代表者）自己又ハ其ノ推薦シタル議員候補者ノ爲ニ選舉運動者ヲ選任シタルトキ（推薦者自ラ選舉運動者ト爲ルトキヲ含ム）ハ直ニ其ノ住所及氏名ヲ選舉區域所轄ノ各警察署ニ届出ツヘシ其ノ選舉運動者ニ異動アリタルトキ亦同シ

第四條ノ四 第四條ノ二第三項ノ規定ニ依リ告示ヲ爲シタル議員候補者又ハ前條ノ規定ニ依リ届出アリタル選舉運動者ニ非サレハ道會議員、府會議員又ハ邑會議員ノ選舉運動ヲ爲スコトヲ得但シ選舉期日ノ告示アリタル後ニ於テ演說又ハ推薦狀ニ依ル選舉運動ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラス

第五條 選舉事務ニ關係アル官吏及吏員ハ其ノ關係區域内ニ於ケル選舉運動ヲ爲スコトヲ得ス

第六條 選舉運動者ハ選舉運動ノ爲ニ要スル飲食物、船車馬等ノ供給又ハ旅費、休泊料其ノ他ノ實費ノ辨償ヲ受クルコトヲ得

第七條 詐偽ノ方法ヲ以テ選舉人名簿ニ登錄セラレタル者又ハ虛偽ノ申立ヲ爲シ會場ニ入りタル者ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條 氏名ヲ詐稱シ其ノ他詐偽ノ方法ヲ以テ投票ヲ爲シタル者ハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條 左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

一 投票ヲ得若ハ得シメ又ハ得シメサル目的ヲ以テ選舉人又ハ選舉運動者ニ對シ金錢、物品其ノ他ノ財産上ノ利益若ハ公私ノ職務ノ供與、其ノ供與ノ申込若ハ約束ヲ爲シ又ハ變應接待、其ノ申込若ハ約束ヲ爲シタルトキ

候補者若ハ候補者タラントスル者ニ對シ又ハ當選ヲ辭セシムル目的ヲ以テ當選人ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ

- 四 候補者タルコト若ハ候補者タラントスルコトヲ止メタルコト又ハ當選ヲ辭シタルコトノ報酬ト爲ス目的ヲ以テ候補者タリシ者、候補者タラントシタル者又ハ當選人タリシ者ニ對シ第一號ニ掲クル行爲ヲ爲シタルトキ
- 五 前各號ノ供與、饗應接待ヲ受ケ若ハ要求シ又ハ其ノ申込ヲ承諾シタルトキ

第九條 選舉ニ關シ左ノ各號ニ掲クル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

- 一 選舉人、候補者、候補者タラントスル者、選舉運動者又ハ當選人ニ對シ暴行若ハ威力ヲ加ヘ又ハ之ヲ拐引シタルトキ
- 二 交通若ハ集會ノ便ヲ妨ケ又ハ演說ヲ妨害シ其ノ他偽計詐術等不正ノ方法ヲ以テ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキ

第十條 選舉ニ關シ官吏又ハ吏員故意ニ其ノ職務ノ執行ヲ怠リ又ハ職權ヲ濫用シテ選舉ノ自由ヲ妨害シタルトキハ六月以下ノ懲役又ハ禁錮ニ處ス

官吏又ハ吏員其ノ資格ニ於テ選舉人ニ對シ其ノ投票セントシ又ハ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示ヲ求メタルトキハ二月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十一條 選舉事務ニ關係アル官吏、吏員、立會人又ハ監視者選舉人ノ投票シタル被選舉人ノ氏名ヲ表示シタルトキハ六月以下ノ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス其ノ表示シタル事實虛偽ナルトキ亦同シ

第十二條 會場ニ於テ正當ノ事由ナクシテ選舉人ノ投票ニ關涉シ又ハ被選舉人ノ氏名ヲ認知スルノ方法ヲ行ヒタル者ハ三月以下ノ禁錮又ハ五十圓以下ノ罰金ニ處ス

濫リニ投票容器若ハ之ニ準スヘキモノヲ開キ又ハ投票容器若ハ之ニ準スヘキモノノ中ヨリ投票ヲ取出シタル者ハ六月以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十三條 投票ヲ偽造シ又ハ其ノ數ヲ増減シタル者ハ一年以下ノ懲役若ハ禁錮又ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十四條 第五條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十五條 當選人其ノ選舉ニ關シ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ當選ヲ無効トス

第十六條 本令ニ掲クル罪ノ時効ハ一年ヲ經過スルニ因リテ完成ス

第十七條 當選人其ノ選舉ニ關シ罪ヲ犯シ刑ニ處セラレタルトキハ檢事局又ハ即決官署ノ長ハ其ノ旨ヲ關係道知事及選舉管理者ニ通知スヘシ但シ當選人學校評議員ナルトキハ關係道知事及郡守又ハ島司ニ通知スヘシ

第十八條 本令中選舉管理者ニ關スル規定ハ投票管理者又ハ投票分會長ニ、會場ニ關スル規定ハ投票所又ハ投票分會ニ、官吏ニ關スル規定ハ待遇官吏ニ之ヲ適用ス但シ第四條ノ二及前條ノ選舉管理者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

附 則

本令ハ昭和四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭六第二一號)

本令ハ昭和六年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

附 則 (昭八第一八號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

道制施行前ニ於ケル道會議員ノ選舉運動ニ付テハ朝鮮地方選舉取締規則ヲ適用ス

附 則 (昭一〇第一七號)

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行前從前ノ規定ニ依リ爲シタル届出及告示ハ之ヲ無効トス

●臨時恩賜金管理規則

明四三、一〇
總令第二六號

改正 四四第四八號、四五第二四號、大三第一三二號、五第九九號、九第二號
一〇第三一號、一三第七〇號、昭二第一四號、三第三六號、九第二號

第一條 明治四十三年八月二十九日勅令第三百二十九號ニ依リ朝鮮各府郡ニ下付セラレタル臨時恩賜金ハ道知事ヲシテ之ヲ管理セシム

第二條 臨時恩賜金ノ元本ハ之ヲ基金トシ費消スルコトヲ得ス

第三條 臨時恩賜金ハ臺帳ヲ備ヘ各府郡島別ニ其ノ種類數量ヲ記載シ國債證券又ハ朝鮮殖産債券ニ在リテハ朝鮮總督ノ指定シタル銀行ニ保護預ケト爲スヘシ

基金タル現金ハ國債證券又ハ朝鮮殖産債券ニ代ヘ保管スヘシ但シ國債證券又ハ朝鮮殖産債券ニ代フル迄ノ間若ハ現金トシテ保管スル必要アル場合ハ郵便貯金預ケ又ハ前項ノ銀行又ハ朝鮮殖産銀行ニ利付預ケト爲スヘシ
道知事必要アリト認ムルトキハ前項ノ規定ニ拘ラス基金タル現金ヲ利付ニテ朝鮮總督ノ指定スル公共團體ニ貸出スコトヲ得

第四條 臨時恩賜金ノ收入ハ授産、社會救済、教育、凶歉救済ノ費用ニ充ツル爲道地方費ニ編入スヘシ但シ凶歉救済費ニ剩餘ヲ生シタルトキハ臨時恩賜金ニ繰戻サシムヘシ

第五條 前條ノ規定ニ依ル編入金ヲ以テ施設スヘキ事業ノ種類及其ノ經理ノ方法ハ道知事ニ於テ府尹、郡守及島司ノ意見ヲ聞キ之ヲ定ムヘシ

第六條 削除

第七條 道知事ハ毎年度前臨時恩賜金ニ對スル收入支出ノ豫算ヲ定メ朝鮮總督ニ報告スヘシ

第八條 第四條但書ニ依リ臨時恩賜金ニ繰戻ヲ受ケタルトキハ之ヲ基金ニ編入スヘシ

第九條 道知事必要アリト認ムルトキハ基金編入金タル現金ヲ第三條第三項ノ規定ニ準シ貸出シ又ハ朝鮮總督ノ認可

ヲ受ケ道地方費ニ編入シテ之ヲ使用スルコトヲ得

第十條 道知事ハ翌年度八月三十一日迄ニ決算ヲ調製シ之ヲ朝鮮總督ニ報告スヘシ

●臨時恩賜金配與ノ件

明四三、一〇
總訓第四六號

今ヤ曩日ノ諭告ニ基キ茲ニ臨時恩賜金一千七百三十九萬八千圓ヲ朝鮮各道十二府三百七十七郡ニ配與セムトス直接之カ管理ノ任ニ膺ルヘキ道長官及府郡有司ハ克ク其ノ趣旨ノ在ル所ヲ顧念シ之カ活用ノ良法ヲ講シ以テ民力休養ノ實績ヲ舉クルコトヲ期スヘシ

抑々我帝國政府カ斯ノ如キ巨額ノ國帑ヲ朝鮮各道府郡ニ配與スル所以ノモノハ固ヨリ其ノ金額ヲ直チニ府郡士民ニ配分シ此ノ恩典ヲシテ僅カニ一時ノ急ヲ救フニ止マラシムカ爲メニアラス蓋シ政府ハ府郡士民カ多年積弊ノ餘孽ヲ受ケ多ク流離困頓ノ窮地ニ在ルヲ憫ミ資金ヲ府郡ニ配與シ道長官ヲシテ管理セシメ之ヲ基本トシテ士民ニ産業ヲ授ケ其ノ教育ノ發展ヲ補助シ凶歉アルニ際シテハ之カ救済ノ資ニ供セシメ府郡士民ヲシテ永ク其ノ惠澤ニ浴セシムトスルニ外ナラス宜シク此ノ意ヲ體シ基金ヨリ生スル利子金額ハ凡ソ其ノ五分ノ三ハ授産ニ五分ノ一・五ハ教育ニ五分ノ〇・五ハ之ヲ凶歉ノ救済資ニ充ツルノ方針ヲ以テ事業ヲ計畫シ若ハ適切ナル事業ニ對シテ補助ヲ與ヘ洽ク士民ヲ救済シ以テ惠撫慈養ノ本義ニ副フヲ要ス素ヨリ之カ管理使用ノ如何ハ偏ニ管理者ノ經營ニ待タサルヘカラスト雖大體左記各項ニ遵由シ努メテ其ノ事業ノ性質經過ヲ覈査シ其ノ效力最モ的確ニシテ其ノ經營最モ實情ニ適切ナルモノヲ撰ミ特ニ凶歉ノ救済ニ關シテハ最モ其ノ方法ノ採擇ヲ慎重ニシ罹災者ヲシテ賑恤ノ實ヲ得セシムヘク苟モ其ノ給與ヲ濫リニシ爲メニ士民ヲシテ恩ニ狃レ勤勞ヲ厭フノ弊風ヲ生セシメ惠撫慈養ノ本義ニ悖ルカ如キコトナカラシムルヲ要ス

左 記

一 授 産

授産ハ先ツ兩班儒生ノ如キ恒産ナキ者ニ對シ産業ヲ授クルノ主旨ナルニヨリ是等ノ者ヲ惠恤スルヲ以テ第一ノ目的ト爲スヘシ而シテ其ノ經營又ハ補助スヘキ事業ハ地方既ニ素地アリ既ニ國內ニ多少存在スル瀧紙及養蠶等ノ如キ經營最モ容易ニシテ奏功確實假令輕微ナルモ依テ以テ糊口ノ資トスルニ足ルヘキモノヲ撰擇スルヲ要ス

二 教育

教育ニ在リテハ力メテ資金ヲ基トシ郷校財産其ノ他ノ收入ヲ加ヘ普通學校ヲ設立スヘシ然レトモ學校ヲ設立スルニ當リテハ教師其ノ人ヲ得基礎確實ニシテ永續見込アルモノナラサルヘカス若シ俄カニ如此學校ヲ設立シ難キ場合若クハ既設ノ學校アリテ新ニ設立ヲ必要トセサル場合ニ在リテハ他ニ存スル私立學校ヲ補助シ漸次ニ普通學校ト同一ノ程度ニ進マシムルノ注意ヲ要ス

三 凶歉ノ救濟

凶歉ノ救濟ハ萬已ムヲ得サル場合ニ之ヲ行ヒ濫施スヘカラサルハ勿論其ノ之ヲ行フニ當リテモ力メテ生業扶助又ハ現物給與等時宜ニ適應セル工夫ニ出テムコトヲ要ス

● 恩給法 (抄)

大一二、四
法律第四八號

改正 昭八第五〇號

第一章 總 則

第一條 公務員及之ニ準スヘキ者並其ノ遺族ハ本法ノ定ムル所ニ依リ恩給ヲ受クルノ權利ヲ有ス

第二條 本法ニ於テ恩給トハ普通恩給、增加恩給、傷病年金、一時恩給、傷病賜金、扶助料及一時扶助料ヲ謂フ

普通恩給、傷病年金、增加恩給及扶助料ハ年金トシ一時恩給、傷病賜金及一時扶助料ハ一時金トス

第三條 年金タル恩給ノ給與ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル月ノ翌月ヨリ之ヲ始メ權利消滅ノ月ヲ以テ終ル

第四條 恩給年額並一時恩給及一時扶助料ノ額ノ圓位未滿ハ之ヲ圓位ニ滿タシム

第五條 恩給ヲ受クルノ權利ハ之ヲ給スヘキ事由ノ生シタル日ヨリ七年間請求セサルトキハ時効ニ因リテ消滅ス

第六條 普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ再就職スルトキハ前條ノ期間ハ再就職ニ係ル官職ノ退職ノ日ヨリ進行ス

前項ノ規定ハ普通恩給、增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クルノ權利ヲ有スル者退職後一年內ニ第四十二條第一項第一號ニ規定スル官内職員トシテ就職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七條 時効期間滿了前二十日內ニ於テ天災其ノ他避クヘカラサル事變ノ爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ其ノ妨礙ノ止ミタル日ヨリ二十日內ハ時効完成セス

時効期間滿了前六月內ニ於テ前權利者生死若ハ所在不明ノ爲又ハ未成年者若ハ禁治産者法定代理人ヲ有セサル爲請求ヲ爲スコト能ハサルトキハ請求ヲ爲スコトヲ得ルニ至リタル日ヨリ六月內ハ時効完成セス

時効期間滿了前ニ適法ニ請求書ヲ發シタルコトノ通信官署ノ公證アルトキハ時効期間內ニ權限アル官公署ニ到達セサルモ之ヲ時効期間內ニ到達シタルモノト看做ス

第八條 公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ二以上ノ恩給ヲ併給セラレヘキ場合ニ於テハ其ノ者ノ選擇ニ依リ其ノ一ヲ給ス但シ特ニ併給スヘキコトヲ定メタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族互ニ通算セラレ得ヘキ在職年又ハ同一ノ傷病ヲ理由トシテ本法ニ依ル恩給ト官内官ノ恩給規定ニ依ル恩給トヲ給セラレヘキ場合ニ於テ官内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ給セラレタルトキハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第九條 年金タル恩給ヲ受クルノ權利ヲ有スル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ權利消滅ス

- 一 死亡シタルトキ
- 二 死刑又ハ無期若ハ二年ヲ越ユル懲役若ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキ

三 國籍ヲ失ヒタルトキ
 在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ因リ禁錮以上ノ刑(陸軍刑法又ハ海軍刑法ニ依ル一年未滿ノ禁錮ノ刑ヲ含マス)ニ處セラレタルトキハ其ノ權利消滅ス但シ其ノ在職カ普通恩給ヲ受ケタル後ニ爲サレタルモノナルトキハ其ノ再在職ニ因リテ生シタル權利ノミ消滅ス

第九條ノ二 裁定官廳ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ年金タル恩給ヲ受ケルノ權利ヲ有スル者ニ付其ノ權利ノ存否ヲ調査スヘシ

第十條 恩給權者死亡シタルトキハ其ノ生存中ノ恩給ニシテ給與ヲ受ケサリシモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ當該公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ遺族ニ給シ遺族ナキトキハ死亡者ノ相續人ニ給ス

第十一條 恩給ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ讓渡シ又ハ擔保ニ供スルコトヲ得ス但シ特別法ノ定ムル所ニ依リ恩給金庫ニ擔保ニ供スルハ此ノ限ニ在ラス

前項ノ規定ニ違反シタルトキハ裁定官廳ハ支給應ニ通知シ恩給ノ支給ヲ差止ムヘシ
 恩給ヲ受ケルノ權利ハ之ヲ差押フルコトヲ得ス但シ國稅徵收法又ハ國稅徵收ノ例ニ依ル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條 恩給ヲ受ケルノ權利ハ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除ク外内閣恩給局長之ヲ裁定ス

第十三條 行政上ノ處分ニ因リ恩給ニ關スル權利ヲ侵害セラレタリトスル者ハ處分後一年內ニ内閣恩給局長ニ具申シ其ノ裁決ヲ求ムルコトヲ得

前項ノ裁決ニ不服アル者ハ裁決ヲ受ケタル日ヨリ六月內ニ内閣總理大臣ニ訴願シ又ハ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得但シ公務傷病ノ程度ニ付テハ出訴ヲ爲スコトヲ得ス

第十四條 内閣總理大臣及内閣恩給局長ノ裁決ハ關係官廳ヲ羈束ス
 第十五條 内閣總理大臣第十三條第二項ノ訴願ノ裁決ヲ爲ス場合ニ於テハ恩給審査會ニ諮問スヘシ

恩給審査會ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十六條 恩給ノ負擔ハ左ノ區分ニ依ル

一 文官及準文官並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ文官ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサル者ノ一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

二 軍人及準軍人並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス

三 朝鮮、臺灣及樺太ニ於ケルモノヲ除ク外公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ其ノ學校又ハ幼稚園ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟之ヲ負擔ス

四 前號ニ規定スル者以外ノ教育職員及準教育職員並其ノ遺族ノ恩給ハ國庫之ヲ負擔ス但シ在外指定學校職員ノ一時恩給ヲ除ク外一時恩給ハ最終ニ之ニ俸給又ハ給料ヲ給シタル者之ヲ負擔ス

第十七條 前條第一號、第二號又ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケルモノノ在職年中ニ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケサルモノノ在職年ヲ通算シテ國庫ヨリ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ハ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ニ恩給ヲ給スル者又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニ俸給ヲ給スル者ニ對シ請求スルコトヲ得

前條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ國庫以外ノ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ第一號、第二號若ハ第四號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ在職年又ハ第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ受ケルモノノ在職年ヲ通算シテ恩給ヲ給スル場合ニ於テハ國庫ニ對シ其ノ通算セラルヘキ在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前條第三號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ニ恩給ヲ給スヘキ者ハ其ノ恩給ノ基礎在職年中ニ他府

縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ノ管轄内ニ於テ在職シタル第三號ニ掲クル公務員又ハ之ニ準スヘキ者トシテノ在職年ヲ合ム場合ニ於テハ當該他府縣又ハ之ニ準スヘキ經濟ニ對シ其ノ合算セラルル在職年ニ應シ勅令ノ定ムル所ニ依リ恩給金額ノ分擔ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ規定ハ前條第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給ノ分擔及同條第三號、第五號若ハ第六號ニ掲クル公務員若ハ之ニ準スヘキ者又ハ其ノ遺族ノ恩給相互ノ分擔ニ付之ヲ準用ス

第十八條 國庫ヨリ恩給ヲ給スルモ俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ府縣費ヨリ俸給ヲ給スル文官、神宮司廳又ハ神宮皇學館ノ職員タル文官、在外指定學校及國庫ノ支辨ニ屬スル地方費ヲ以テ維持スル公立學校ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

國庫以外ノ經濟ヨリ恩給ヲ給スル俸給ヲ給セサル公務員ニ俸給ヲ給スル者ハ其ノ俸給ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ其ノ經濟ニ納付スヘシ

前項ノ經濟ニ對シテハ國庫ハ前項ニ規定スル納金額ノ二分ノ一ニ相當スル金額ヲ交付ス

第二章 公務員

第一節 通 則

第十九條 本法ニ於テ公務員トハ文官、軍人、教育職員及警察監獄職員並第二十四條ニ掲クル待遇職員ヲ謂フ

本法ニ於テ公務員ニ準スヘキ者トハ準文官、準軍人及準教育職員ヲ謂フ

第二十條 文官トハ武官又ハ宮内官以外ノ官ニ在ル者ヲ謂フ但シ勅令ヲ以テ定ムルモノヲ除クノ外國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ハ此ノ限ニ在ラス

準文官トハ高等文官ノ試補、判任官見習及國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ル者ニシテ前項但書ノ規定ニ基ク勅令ヲ以テ指定セラレサルモノヲ謂フ

第二十二條 教育職員トハ左ニ掲クル者ヲ謂フ

- 一 公立ノ學校、幼稚園若ハ圖書館又ハ在外指定學校ノ職員ニシテ國庫ヨリ俸給ヲ給セサル官ニ在ルモノ及判任官以上ノ待遇ヲ受クルモノ
- 二 道府縣立師範學校長

前項ノ在外指定學校トハ在外國本邦人ノ爲ニ設置シタル學校ニシテ勅令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ指定シタルモノヲ謂フ

準教育職員トハ官立又ハ公立ノ學校又ハ幼稚園ノ職員ニシテ勅令ヲ以テ指定スルモノヲ謂フ

第二十五條 本法ニ於テ就職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ任官但シ終身官タル文官ニ在リテハ任官ノ外復職
- 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ任官、其ノ他ノモノニ在リテハ任命

第二十六條 本法ニ於テ退職トハ左ノ各號ノ一ニ該當スルコトヲ謂フ

- 一 文官ニ在リテハ免官、退官又ハ失官但シ終身官タル文官ニ在リテハ免官、退官、失官ノ外退職
- 三 教育職員ニシテ官吏タルモノニ在リテハ免官、退官又ハ失官、其ノ他ノモノニ在リテハ免職、退職、解職又ハ失職

第二十七條 第二十五條第一號及前條第一號ノ規定ハ準文官ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十五條第三號及前條第三號ノ規定ハ準教育職員ノ就職及退職ニ付之ヲ準用ス

第二十八條 公務員ノ在職年ハ就職ノ月ヨリ之ヲ起算シ退職又ハ死亡ノ月ヲ以テ終ル

退職シタル後再就職シタルトキハ前後ノ在職年月數ハ之ヲ合算ス但シ一時恩給又ハ第八十二條ニ規定スル一時扶助料ノ基礎ト爲ルヘキ在職年ニ付テハ前ニ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年其ノ他ノ前在職年ノ年月數ハ之ヲ合算セ

退職シタル月ニ於テ再就職シタルトキハ再在職ノ在職年ハ再就職ノ月ノ翌月ヨリ之ヲ起算ス

第二十九條 公務員二以上ノ官職ヲ併有スル場合ニ於テ其ノ重複スル在職年ニ付テハ年數計算ニ關シ利益ナル一官職ノ在職年ニ依ル

第三十八條 公務員其ノ職務ヲ以テ邊陲又ハ不健康ノ地域ニ引續キ一年以上在勤シタルトキハ其ノ期間ノ一月ニ付一月以内ヲ加算ス不健康ナル業務ニ引續キ一年以上服務シタルトキ亦同シ

前項ノ地域相互間ノ轉勤ハ之ヲ引續キタル在勤ト看做ス

第四十條 第三十二條乃至前條ノ規定ニ依リ附スヘキ加算年ハ在職年ノ計算ニ付勅令ノ定ムル所ニ依リ實在職年ニ從トシテ之ヲ算入ス

加算年ヲ附スヘキ基礎在職年ハ加算事由ノ生シタル月ヨリ之ヲ起算シ其ノ事由ノ止ミタル月ヲ以テ終ル

二種以上ノ加算年ヲ附セラレヘキ期間ニ對シテハ最モ利益ナルモノニ依リ其ノ一ヲ附ス

第四十條ノ二 休職、待命、歸休、停職其ノ他現實ニ職務ヲ執ルヲ要セサル在職期間ニシテ一月以上ニ互ルモノハ勅令ノ定ムル所ニ依リ在職年ノ計算ニ於テ之ヲ半減ス

第四十一條 左ニ掲クル年數ハ在職年ヨリ之ヲ除算ス

一 普通恩給又ハ增加恩給ヲ受クルノ權利消滅シタル場合ニ於テ其ノ恩給權ノ基礎ト爲リタル在職年

二 第五十一條ノ規定ニ依リ公務員カ恩給ヲ受クルノ資格ヲ失ヒタル在職年

三 在職中二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタル場合ニ於テハ其ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クル

コトナキニ至リタル月迄ノ在職年數但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタル者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄ノ在職年數

四 公務員退職後在職中ノ職務ニ關スル犯罪(過失犯ヲ除ク)ニ付陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ犯罪ノ時ヲ含ム

引續キタル在職年數

五 公務員ノ不法ニ其ノ職務ヲ離レタル月ヨリ職務ニ復シタル月迄ノ在職年數

第四十二條 左ニ掲クル年數ハ之ヲ在職年ニ通算ス

三 高等文官ノ試補又ハ判任官見習引續キ公務員ト爲リタルトキハ公務員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年數ノ二分ノ一ニ相當スル年數

四 準教育職員引續キ教育職員ト爲リタルトキハ教育職員トシテノ就職ニ接續スル其ノ勤續年數ノ二分ノ一ニ相當スル年數

第二十八條、第二十九條及第三十條ノ規定ハ前項ノ規定ニ依リ在職年ニ通算セラルヘキ年數ノ計算ニ付之ヲ準用ス

第四十四條 本法ニ於テ俸給トハ本俸及之ニ準スヘキモノヲ謂フ

本俸ニ準スヘキモノハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

公務員二以上ノ官職ヲ併有シ各官職ニ付俸給ヲ給セラレルル場合ニ於テハ俸給額ヲ合算シタルモノヲ以テ其ノ者ノ俸給額トス

第四十五條 公務員所定ノ年數在職シ退職シタルトキハ之ニ普通恩給又ハ一時恩給ヲ給ス

第四十六條 公務員公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト爲リ失格原因ナクシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス

公務員公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ失格原因ナクシテ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癡疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキハ新ニ普通恩給及增加恩給ヲ給シ又ハ現ニ受クル增加恩給ヲ不具癡疾ノ程度ニ相應スル增加恩給ニ改定ス前項ノ期間ヲ經過シタルトキト雖裁定官廳ニ於テ恩給審査會ノ議ニ付スルヲ相當ト認メ且恩給審査會ニ於テ不具癡疾カ公務ニ起因シタルコト顯著ナリト議決シタルトキハ決議シタル

月ノ翌月ヨリ之ニ相當ノ恩給ヲ給シ又ハ之ヲ改定ス
公務員公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト爲ルモ公務員ニ重大ナル過失アリタルトキハ前三項ニ規定ス
ル恩給ヲ給セス

第四十六條ノ二 公務員公務ノ爲永續性ヲ有スル傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ノ程度ニ至ラサルモ勅令ノ定ム
ル程度ニ達シ失格原因ナクシテ之カ爲其ノ職ニ堪ヘスシテ一年内ニ退職シタルトキ又ハ其ノ公務員力下士官以下ノ
軍人ニシテ退職後三年内ニ之カ爲一種以上ノ兵役ヲ免セラレタルトキハ之ニ傷病年金ヲ給ス

前條第二項及第三項ノ規定ハ前項ニ規定スル條件(傷病ノ程度ヲ除ク)ヲ具備スル者ニシテ退職當時ノ傷病ノ程度
カ前項ノ勅令ニ定ムル程度ニ達セザリシモノノ傷病年金ニ付之ヲ準用ス
前條第四項ノ規定ハ前二項ノ規定ニ依リ給スヘキ傷病年金ニ付之ヲ準用ス

傷病年金ハ之ヲ普通恩給又ハ一時恩給ト併給スルヲ妨ケス

第四十七條 前二條ノ規定ハ準文官、陸軍ノ見習士官、海軍ノ候補生以外ノ準軍人又ハ準教育職員ニシテ在職中公務
ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノ及陸軍ノ見習士官又ハ海軍ノ候補生ニシテ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ
罹リタルモノニ付之ヲ準用ス

第四十八條

公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタルモノト看做ス

- 一 勅令ヲ以テ指定スル地域ニ在勤中其ノ地ニ於テ流行病ニ罹リタルトキ
 - 二 戰地ニ於テ又ハ公務旅行中流行病ニ罹リタルトキ
 - 三 公務員タル特別ノ事情ニ關聯シテ生シタル不慮ノ災厄ニ因リ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ恩給審査會ニ於テ公務
ニ起因シタルト同視スヘキモノト議決セラレタルトキ
- 前項ノ流行病ノ種類ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム
前二項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ付之ヲ準用ス

第四十九條 公務傷病ノ原因ヲ分ツテ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ト普通公務トス

戰鬪ニ準スヘキ公務ノ範圍、公務傷病ニ依ル不具癡疾ノ程度及傷病年金ヲ給スヘキ傷病ノ程度並教育職員、警察監
獄員、待遇職員、準文官、準軍人及準教育職員ノ公務傷病ニ關スル規定ノ適用ニ付テノ階等ハ勅令ヲ以テ之ヲ定
ム

第五十條 裁定官廳ハ增加恩給ノ裁定ヲ爲スニ當リ將來不具癡疾ノ回復シ又ハ其ノ程度低下スルコトアルヘキコトヲ
認メタルトキハ五年間之ニ普通恩給及增加恩給ヲ給ス
前項ノ期間滿了ノ六月前迄傷病疾病回復セサル者ハ再審査ヲ請求スルコトヲ得再審査ノ結果恩給ヲ給スヘキモノナ
ルトキハ之ニ相當ノ恩給ヲ給ス

前二項ノ規定ハ傷病年金ノ裁定ヲ爲ス場合ニ付之ヲ準用ス

第五十一條

公務員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ引續キタル在職ニ付恩給ヲ受クルノ資格ヲ失フ

- 一 懲戒、懲罰又ハ教員免許狀褫奪ノ處分ニ因リ退職シタルトキ
- 二 在職中陸軍刑法若ハ海軍刑法ニ依リ死刑、懲役刑若ハ一年以上ノ禁錮ノ刑ニ處セラレ又ハ其ノ他ノ法令ニ依リ
禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

第五十二條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍他ノ公務員トシテ在職スルモノニ付テハ總テノ公務員ヲ退職スルニ非サ
レハ之ニ恩給ヲ給セス

公務員ニシテ退職ノ當日又ハ翌日他ノ公務員ニ就職シ之ヲ勤續ト看做サルモノニ付テハ後ノ公務員ヲ退職スルニ
非サレハ之ニ恩給ヲ給セス
公務員ニシテ恩給ヲ給セサル官職ニ轉シ退職シタルモノニ付テハ其ノ轉任ヲ退職ト看做シ之ニ恩給ヲ給ス

第五十三條 公務員ニシテ其ノ退職ノ當時仍第四十二條第一項第一號ニ規定スル宮内職員トシテ在職スルモノニ付テ

ハ本法ニ依ル恩給ハ之ヲ給セス

第五十四條

普通恩給ヲ受クル者再就職シ失格原因ナクシテ退職シ左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ恩給ヲ改定ス

- 一 再就職後在職一年以上ニシテ退職シタルトキ
- 二 再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ不具癡疾ト爲リ退職シタルトキ
- 三 再就職後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ退職シタル後五年内ニ之カ爲不具癡疾ト爲リ又ハ其ノ程度増進シタル場合ニ於テ其ノ期間内ニ請求シタルトキ

前項第三號ノ場合ニ於テハ第四十六條第三項ノ規定ヲ準用ス

第五十五條

前條ノ規定ニ依リ普通恩給ヲ改定スルニハ前後ノ在職年ヲ合算シ其ノ年額ヲ定メ增加恩給ヲ改定スルニ

ハ前後ノ傷病又ハ疾病ヲ合シタルモノヲ以テ不具癡疾ノ程度トシ其ノ恩給年額ヲ定ム

前項ノ場合ニ於テ前後ノ傷病又ハ疾病ノ原因ヲ異ニスルトキハ左ノ區別ニ依リ其ノ年額ヲ定ム

- 一 後ノ傷病又ハ疾病ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ヨリ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表甲號中前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癡疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ控除シタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス但シ後ノ傷病又ハ疾病ノミニ四ノ增加恩給年額カ前後ノ傷病又ハ疾病ヲ合シタルモノニ依ル增加恩給年額ト同額ナルトキハ此ノ控除ヲ爲サス
- 二 後ノ傷病又ハ疾病カ普通公務ニ起因スルトキハ別表第二號表中乙號前項ノ規定ニ依リ定メタル不具癡疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額ニ前ノ增加恩給年額ト別表第二號表乙號中其ノ不具癡疾ノ程度ニ相應スル增加恩給年額トノ差額ヲ加ヘタルモノヲ以テ增加恩給ノ年額トス

第五十六條

前三條ノ規定ニ依リ恩給ヲ改定スル場合ニ於テ其ノ年額從前ノ恩給年額ヨリ少キトキハ從前ノ恩給年額

又ハ疾病ニ罹リ退職シ增加恩給又ハ傷病年金ヲ受クヘキ場合ニ付之ヲ準用ス

第五十七條

前四條ノ規定ハ宮内官ノ恩給規程ニ依ル恩給ヲ受クル者公務員ト爲リ退職シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第五十八條

普通恩給ハ之ヲ受クル者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ間之ヲ停止ス

- 一 公務員又ハ第四十二條第一號ニ規定スル宮内職員トシテ就職スルトキハ就職ノ月ノ翌月ヨリ退職ノ月迄但シ實在職期間一月未滿ナルトキ、軍人以外ノ公務員トシテ恩給ヲ受クル者陸軍若ハ海軍ノ兵卒トシテ就職スルトキ又ハ准士官以下ノ軍人若ハ準軍人トシテ恩給ヲ受クル者軍人以外ノ公務員トシテ就職スルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ恩給ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス
- 三 之ヲ受クル者三十五歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ六分ノ一、三十五歳以上四十歳ニ滿ツル月迄ハ普通恩給ノ八分ノ一ヲ停止ス但シ增加恩給又ハ傷病年金ト併給セラレタル場合ニハ之ヲ停止セス
- 四 恩給年額千圓以上ニシテ其ノ恩給外ノ所得ノ年額五千圓ヲ超ユルトキハ恩給年額ト恩給外ノ所得ノ年額トノ合計額ノ六千圓ヲ超ユル額ノ二割ニ相當スル金額ヲ停止ス但シ恩給ノ支給額年額千圓ヲ下ラシムルコトナク其ノ停止年額ハ恩給年額ノ二割ヲ超ユルコトナシ

第五十九條

文官ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ

教育職員ハ毎月其ノ俸給ノ百分ノ二ニ相當スル金額ヲ國庫ニ納付スヘシ但シ朝鮮、臺灣又ハ樺太以外ノ地ニ於ケル公立ノ小學校、青年學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校及小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員ハ其ノ學校又ハ幼稚園

ノ所在地ヲ管轄スル府縣又ハ之ニ準スヘキ地方經濟ニ對シ其ノ俸給(又ハ給料)ノ百分ノ一ニ相當スル金額ヲ純付スヘシ

第二節 恩給金額

第五十九條ノ二

本節ニ於テ退職前ノ俸給年額ト稱スルハ退職前一年内ノ俸給(軍人及準軍人ニ在リテハ各階等ニ付定メラレタル別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ其ノ階等ニ對スル俸給額トス)ノ總額ヲ謂フ但シ左ノ特例ニ從フ

一 公務ノ爲傷疾ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ之カ爲退職シ又ハ死亡シタル者ニ付退職又ハ死亡ノ際昇給アリタルトキハ其ノ爲サレタル昇給ノ中級俸ノ定メアルモノ(軍人及準軍人ニ付テハ別表第一號表ノ假定俸給額ヲ以テ級俸トス)ニ付テハ一級、其ノ定ナキモノニ付テハ昇給前俸給ノ百分ノ十五ヲ限度トシ退職一年前ヨリ昇給セラレタルモノトシテ計算ス退職又ハ死亡前一年内ニ昇給アリテ退職又ハ死亡ノ際昇給ナカリシトキ亦同シ

二 前號ニ規定スル場合以外ノ場合ニ於テ退職前一年内ニ昇給アリタルトキハ其ノ昇給力前俸給二年以上据置ノ後爲サレタルモノナルトキニ限り前號ノ規定ヲ準用ス

轉官職ニ依ル俸給ノ増額ハ之ヲ昇給ト看做シ前項但書ノ規定ヲ準用ス

前二項ニ規定スル退職前一年内ノ俸給ノ算出方法ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

實在職期間一年未滿ナルトキハ俸給ノ關係ニ於テハ就職前モ就職當時ノ俸給ヲ以テ在職シタルモノト看做シ計算ス本節ニ於テ退職前ノ俸給月額ト稱スルハ退職前ノ俸給年額ノ十二分ノ一ニ相當スル金額ヲ謂フ

第六十條 文官在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ外國實勤績在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額三百分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

在職年四十年ヲ超ユル者ニ給スヘキ恩給年額ハ之ヲ在職年四十年トシテ計算ス

第一項ノ在職年ハ國務大臣トシテ退官スル者ニ付テハ國務大臣トシテノ在職年五年以上ナルヲ以テ足ル

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號第五十五條ノ二又ハ前項ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第四十七條ノ規定ニ依リ準文官ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トス

第六十二條 教育職員在職年十七年以上ニシテ退職シタルトキハ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年以上十八年未滿ニ對シ退職當時ノ俸給年額百五十分ノ五十二ニ相當スル金額トシ十七年以上一年ヲ増ス毎ニ其ノ一年ニ對シ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ加ヘタル金額トス

前項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ小學校、青年學校、實業補習學校、幼稚園、盲學校、聾啞學校又ハ小學校ニ類スル各種學校ノ教育職員トシテノ勤績在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

第二項ノ場合ニ於テ其ノ在職年中ニ中學校又ハ之ト同等以下ノ程度ノ學校ノ教育職員トシテ勤績在職年十七年以上ノモノヲ含ムトキハ其ノ勤績在職年中十七年ヲ控除シタル殘ノ勤績在職年一年ニ付退職當時ノ俸給年額ノ三分ノ一ノ割合ヲ以テ之ニ加給ス

前項ノ中學校ト同等以下ノ程度ノ學校ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第四十六條、第五十四條第一項第二號若ハ第三號又ハ第五十五條ノ二ノ規定ニ依リ在職年十七年未滿ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ在職年十七年ノ者ニ給スヘキ普通恩給ノ額トス

第六十條第三項及第四項ノ規定ハ教育職員ニ付之ヲ準用ス
第四十七條ノ規定ニ依リ準教育職員ニ給スヘキ普通恩給ノ年額ハ退職當時ノ俸給年額ノ百五十分ノ五十ニ相當スル金額トス

第六十四條ノ二 一時恩給ヲ受ケタル後其ノ一時恩給ノ基礎ト爲リタル在職年數一年ヲ二月ニ換算シタル月數内ニ召集其ノ他ノ強制ニ依ラスシテ再就職シタル者ニ普通恩給ヲ給スル場合ニ於テハ當該換算月數ト退職ノ翌月ヨリ再就職ノ月迄ノ月數トノ差月數ヲ一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ニ乗シタル金額ノ十五分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノヲ以テ其ノ普通恩給ノ年額トス但シ差月數一月ニ付一時恩給額算出ノ基礎ト爲リタル俸給月額ノ二分ノ一ノ割合ヲ以テ計算シタル金額ヲ勅令ノ定ムル時期ニ於テ返還シタルトキハ此ノ限ニ在ラス
第六十五條 公務員ノ增加恩給ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及不具癡疾ノ程度ニ依リ定メタル別表第二號表ノ金額トス但シ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年内ニ退職セザリシ場合ニ於テハ傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル時ヨリ五年ヲ經過シタル日ニ於ケル階等ヲ以テ退職當時ノ階等ト看做ス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ增加恩給ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十五條ノ二 公務員ノ傷病年額ノ年額ハ退職當時ノ階等、傷病ノ原因及傷病ノ程度ニ依リ定メタル別表第三號表ノ金額トス但シ普通恩給ヲ併給セラルル場合ニ於テハ別表第三號表ノ金額ノ十分ノ七・五ニ相當スル金額ヲ以テ傷病年額ノ年額トス

前項ノ規定ハ公務員ニ準スヘキ者ニ給スヘキ傷病年額ノ年額ニ付之ヲ準用ス

第六十七條 文官教育職員又ハ待遇職員在職年三年以上十七年未満ニシテ退職シタルトキハ之ニ一時恩給ヲ給ス
前項ノ一時恩給ノ金額ハ退職前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第三章 遺 族

第七十二條 本法ニ於テ遺族トハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ祖父、祖母、父、母、夫、妻、子及兄弟姉妹ニシテ公

務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時之ト同一戸籍内ニ在ルモノヲ謂フ

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時胎兒タル子出生シタルトキハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡ノ當時其ノ戸籍内ニ在リタルモノト看做ス

第七十三條 公務員又ハ之ニ準スヘキ者左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ其ノ遺族ニハ妻、未成年ノ子、夫、父、母、

成年ノ子、祖父、祖母ノ順位ニ依リ之ニ扶助料ヲ給ス

一 在職中死亡シ其ノ死亡ヲ退職ト看做ストキハ之ニ普通恩給ヲ給スヘキトキ

二 普通恩給ヲ給セラルル者死亡シタルトキ

前項ノ規定ニ依ル同順位ノ子數人アルトキハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ヲ被相続人トシタル家督相續ノ順位ニ準シ之ヲ定ム

父母ニ付テハ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス祖父母ニ付テハ養父母ノ父母ヲ先ニシ實父母ノ父母ヲ後ニシ父母ノ養父母ヲ先ニシ實父母ヲ後ニス

先順位者タルヘキ者後順位者タル者ヨリ後ニ生スルニ至リタルトキハ前三項ノ規定ハ當該後順位者失權シタル後ニ限り之ヲ適用ス

第七十四條 未成年ノ子ハ未タ婚姻セサルトキニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

夫又ハ成年ノ子ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキトキニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

養子ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ家督相續人タルトキ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者カ家督相續人ニシテ之ヲ戸主ト看做ストキハ其ノ死亡ノ時ニ於テ其ノ家督相續人タルヘキ者ニ限り之ニ扶助料ヲ給ス

前項ノ家督相續人ニハ之ニ準スヘキ者ヲ包含ス

第七十五條 扶助料ノ年額ハ左ノ各號ニ依ル

一 第二號乃至第四號ニ特ニ規定スル場合ノ外ハ公務員又ハ之ニ準スヘキ者ニ給セラルル普通恩給年額ノ十分ノ五

ニ相當スル金額

- 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者職圖又ハ職圖ニ準スヘキ公務ニ因ル傷病疾病ノ爲死亡シタルトキハ前號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ皆等ニ依リ定メタル別表第五號表ノ率ヲ乘シタル金額
- 三 公務員又ハ之ニ準スヘキ者普通公務ニ因ル傷病疾病ノ爲死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第六號表ノ率ヲ乘シタル金額
- 四 増加恩給ヲ併給セラルル者公務ニ起因スル傷病疾病ニ因ラスシテ死亡シタルトキハ第一號ノ規定ニ依ル金額ニ退職當時ノ階等ニ依リ定メタル別表第七號表ノ率ヲ乘シタル金額

前項第二號乃至第四號ニ規定スル場合ニ於テ扶助料ヲ受クル者ノ同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クヘキ要件ヲ具フル遺族

カ扶助料ヲ受クル者ヲ合シ三人以上アルトキハ其ノ扶助料年額ニ遺族ノ人員ニ依リ定メタル別表第八號表ノ率ヲ乘シタル金額ヲ加給ス但シ同一戸籍内ニ扶助料ヲ受クル者二人以上アル場合及二以上ノ扶助料ヲ併セ受クル者アル場合ニ於ケル加給ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依ル

第七十六條

公務員又ハ之ニ準スヘキ者ノ死亡後遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ資格ヲ失フ

- 一 子婚姻シ又ハ其ノ家ヲ去リタルトキ但シ父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 公務員又ハ之ニ準スヘキ者女子ナル場合ニ於テ夫婚姻シ又ハ家ヲ去リタルトキ
- 三 父、母、祖父又ハ祖母其ノ家ヲ去リタルトキ

第七十七條

扶助料ヲ受クル者二年以下ノ懲役又ハ禁錮ノ刑ニ處セラレタルトキハ其ノ月ノ翌月ヨリ其ノ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄扶助料ヲ停止ス但シ刑ノ執行猶豫ノ言渡ヲ受ケタルトキハ扶助料ハ之ヲ停止セス其ノ言渡ヲ取消サレタルトキハ取消ノ月ノ翌月ヨリ刑ノ執行ヲ終リ又ハ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル月迄之ヲ停止ス

前項ノ規定ハ禁錮以上ノ刑ニ處セラレ刑ノ執行中又ハ其ノ執行前ニ在ル者ニ扶助料ヲ給スヘキ事由發生シタル場合ニ付之ヲ準用ス

第七十八條

扶助料ヲ給セラルヘキ者一年以上所在不明ナルトキハ次順位者ノ申請ニ依リ裁定官廳ハ所在不明中扶助料ノ停止ヲ命スルコトヲ得

第七十九條

前二條ノ扶助料停止ノ事由アル場合ニ次順位者アルトキハ停止期間中扶助料ハ之ヲ當該次順位者ニ轉給ス

第八十條

遺族左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失フ

- 一 其ノ家ヲ去リタルトキ但シ妻夫ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ遺族タル子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキ及子父ノ屬シタル家ヨリ分家シ又ハ公務員若ハ之ニ準スヘキ者ノ妻若ハ子ニシテ分家スルモノニ伴ヒ其ノ家ニ入りタルトキハ此ノ限ニ在ラス
- 二 妻、子又ハ夫婚姻シタルトキ
- 三 不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ夫又ハ成年ノ子ニ付其ノ事情止ミタルトキ

届出ヲ爲ササルモ事實上婚姻關係ト同様ノ事情ニ入りタリト認メラルル遺族ニ付テハ裁定官廳ハ恩給審査會ニ諮問ノ上其ノ者ノ扶助料ヲ受クルノ權利ヲ失ハシムルコトヲ得

裁定官廳ハ前項ニ規定スル事情ヲ調査スル爲必要アルトキハ他ノ官廳又ハ公署ノ援助ヲ求ムルコトヲ得

第八十一條

公務員又ハ之ニ準スヘキ者第七十三條第一項各號ノ一ニ該當シ兄弟姊妹以外ニ扶助料ヲ受クル者ナキトキハ其ノ兄弟姊妹未成年又ハ不具癡疾ニシテ生活資料ヲ得ルノ途ナク且之ヲ扶養スル者ナキ場合ニ限り之ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ兄弟姊妹ノ人員ニ拘ラス扶助料年額ノ一年分乃至五年分ニ相當スル金額トス

第八十二條

文官、教育職員若ハ待遇職員在職年三年以上十七年未滿、準士官以上ノ軍人在職年三年以上十三年未滿

下士官タル軍人又ハ警察監獄職員在職年三年以上十二年未滿ニシテ在職中死亡シタル場合ニハ其ノ遺族ニ一時扶助料ヲ給ス

前項ノ一時扶助料ノ金額ハ公務員ノ死亡ノ前ノ俸給月額ニ相當スル金額ニ其ノ公務員ノ在職年ノ年數ヲ乘シタル金額トス

第五十九條ノ二第五項ノ規定ハ死亡前ノ俸給月額ニ付之ヲ準用ス

第七十三條中遺族ノ順位ニ關スル規定及第七十三條ノ規定ハ第一項ノ扶助料ヲ給スル場合ニ付之ヲ準用ス

附 則

第八十三條 本法ハ大正十二年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第八十五條 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ從前ノ規定ニ依ル

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スキモノハ之ヲ本法ニ依リ受ケ又ハ受ケヘキ恩給ト看做ス

前項ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノカ本法ニ依リ給與スル恩給ノ何レノ種類ニ屬スヘキカハ公務員及其ノ遺族ノ種類並給與ノ事由ニ依リ之ヲ定ム

從前ノ規定ニ依ル恩給、退隱料、遺族扶助料其ノ他之ニ準スヘキモノニシテ本法ニ依ル恩給ニ該當セサルモノアルトキハ本法ニ依ル恩給中最近キ性質ヲ有スルモノニ依ル

第八十六條 第五條乃至第七條ノ規定ハ從前ノ規定ニ依リ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノヲ受ケヘキ權利ニシテ本法施行ノ日迄ニ從前ノ規定ニ依ル請求期間ヲ經過セサルモノニ付之ヲ適用ス

第八十七條 第十條ノ規定ハ本法施行前給與ノ事由ヲ生シタル恩給、退隱料、遺族扶助料、退官賜金、退職給與金、

退職一時金、給助金、賑恤金、一時扶助金其ノ他之ニ準スヘキモノニ付テハ本法施行後其ノ給與ヲ爲ス場合ニ付之ヲ適用ス

第九十條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ハ從前ノ規定ニ依ル但シ本法施行ノ際現ニ在職スル者ニ付テハ其ノ在職ニ繼續スル在職ニ限り本法施行前ノ在職ト雖加算年ニ關スル規定ヲ除クノ外本法ニ依リ其ノ在職年ヲ計算ス

前項但書ノ場合ニ於テ從前ノ規定ニ依リ特ニ通算シ得ヘキコトヲ定メラレタル年月數アルトキハ前項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ在職年ニ通算ス

第九十一條 内地人タル公務員其ノ職務ヲ以テ臺灣、朝鮮、關東州、樺太又ハ南洋群島ニ一定ノ期間引續キ在勤シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付半月ヲ加算ス

關東局職員ニシテ滿洲國新京特別市ニ在勤スルモノハ前項ノ規定ノ適用ニ付テハ關東州ニ在勤スルモノト看做ス

第一項ノ引續キ在職スヘキ期間ハ軍人ニ在リテハ一年、警察監獄職員ニ在リテハ三年、其ノ他ノ公務員ニ在リテハ四年トス

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十二條 公務員其ノ職務ヲ以テ國境警備又ハ理蕃ノ爲危險地域内ニ勤務シタルトキハ當分ノ内在勤期間ノ一月ニ付一月半ヲ加算ス

前項ノ危險地域及期間ハ勅裁ヲ以テ之ヲ定ム

第四十條ノ規定ハ第一項ノ場合ニ付之ヲ準用ス

第九十八條 第四十八條ノ規定ハ本法施行前傷痍ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リ本法施行後退職シ本法施行後不具癡疾ト爲リタル者ニハ之ヲ適用セス仍從前ノ例ニ依ル

第一條 本法ハ昭和八年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第四十六條ノ二、第五十八條第一項第四號及第五十九條ノ改正規定ハ昭和九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二條 本法施行前給與事由ノ生シタル恩給ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル但シ第五十八條第一項第四號ノ改正規定ハ本法施行前給與事由ノ生シタル恩給ニ付テモ之ヲ適用ス

第三條 第十三條第二項但書ノ改正規定ハ本法施行前ヨリ行政裁判所ニ繫屬スル事件ニ付テハ之ヲ適用セズ

第四條 第十八條第一項ノ改正規定ニ依ル納付金額ハ同項ニ規定スル公務員ニ付テ附則第九條ノ規定ノ必要ナキニ至ル迄ハ第十八條第一項ノ改正規定ニ拘ラス同項ニ規定スル公務員カ第五十九條(改正前又ハ改正後)及附則第九條ノ規定ニ依リ納付スル金額ノ合計額ト同額トス

第五條 本法施行前ノ在職ニ付在職年ヲ計算スル場合ニ於テハ加算年又ハ休職等ノ減算ニ關スル改正規定ニ拘ラス仍從前ノ規定ニ依ル

第六條 第四十條ノ二ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ進行中ニ屬スル休職、待命、歸休、停職其ノ他同條ニ規定スル在職期間ニ付テハ其ノ期間ノ終了ニ至ル迄本法施行後ト雖モ同條ノ規定ヲ適用セズ

第七條 傷病年金ハ本法施行後公務ノ爲傷病ヲ受ケ又ハ疾病ニ罹リタル者ニ之ヲ給ス但シ本法施行前賑恤金(之ニ準定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向テ之ヲ給ス

第八條 第五十八條第一項第三號ノ改正規定ハ本法施行前普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生シタル者及本法施行ノ際現ニ在職シ本法施行後退職シテ普通恩給ヲ受クルノ權利ヲ生スル者ニハ之ヲ適用セズ

前項ニ規定スル者本法施行後再就職シ其ノ普通恩給ヲ改定セラルル場合ニハ其ノ改定ニ依ル増額分ニ付第五十八條第一項第三號ノ改正規定ヲ適用ス

第九條 第五十九條ノ改正規定ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ本法施行後就職シ又ハ俸給(又ハ給料)カ昇給者ハ増額セラ

レタル月ノ翌月ヨリ之ヲ適用ス
第十條 第五十九條ノ二第一項但書ノ場合ニ於テ其ノ公務員カ同一種類ノ公務員トシテ實在職年二十年以上勤続シタル者ニシテ特殊ノ事情アルモノニ付テハ當分ノ内同但書各號ニ於ケル制限ノ一級ヲ二級、百分ノ十五ヲ百分ノ三十トス

第十一條 本法施行ノ際從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達シタル者ニハ其ノ者カ本法施行後改正規定ニ依ル最短恩給年限ニ達セスシテ退職シタル場合ト雖モ退職前ノ俸給ニ依リ之ニ普通恩給ヲ給ス但シ其ノ年額ハ在職年ノ不足一年ニ付退職前ノ俸給年額ノ百五十分ノ一ニ相當スル金額ヲ控除シタルモノトス

第十二條 前條ノ規定ハ本法施行ノ際現ニ休職、再服役其ノ他法令上ノ在職期限ノ定アル地位ニ在ル者ニシテ本法施行後其ノ期間ノ終了ニ因リ從前ノ規定ニ依ル普通恩給ニ付テノ最短恩給年限ニ達スルモノニ付テ之ヲ準用ス

第十三條 第六十四條ノ二ノ改正規定ハ本法施行前受ケタル一時恩給ニ付テハ之ヲ適用セズ

第十四條 第七十五條第二項ノ改正規定ハ公務員カ本法施行前死亡シタル場合ニ付テモ之ヲ適用ス但シ此ノ場合ニ於ケル加給ハ本法施行後ニ屬スル殘存期間ニ付テノミ之ヲ爲ス

第十五條 恩給法施行前同法第二十三條ニ掲ケル公務員トシテ普通恩給(退隱料)ヲ受ケ引續キ文官ニ任シ同法施行後迄在職シタル後本法施行前退職シ同法第八十五條第一項ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給(退隱料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定セラレザリシ者ニ付テハ同項ノ規定ニ拘ラス特ニ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用シ本法施行ノ日ヨリ本法施行前ノ規定ニ依リ其ノ普通恩給(退隱料)ヲ文官ノ普通恩給ニ改定ス但シ恩給法施行後文官退職ニ依リ一時恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ勅令ノ定ムル所ニ依リ其ノ一時恩給ノ金額ヲ改定ニ因リ増額セラルル普通恩給額中ヨリ支給ニ際シ控除ス

前項ノ規定ハ恩給法施行後本法施行前ニ文官トシテ普通恩給ヲ受ケタル者ニ付テハ之ヲ適用セズ

第一項ニ規定スル者引續キ本法施行後迄在職スルトキハ恩給法第八十五條第一項ノ規定ニ拘ラス恩給法第九十條第

附 録

一項ノ規定ヲ適用シ同法第二十三條ニ掲ケル公務員トシテノ普通恩給(退職料)ヲ文官トシテノ普通恩給ニ改定ス
 第十六條 第九十一條第二項ノ改正規定ハ本法施行ノ際現ニ在職シ従前ノ同項ニ規定スル期間ヲ經過シタル者ニ付テハ之ヲ適用セス

第十七條 本法施行ノ際現ニ在職シ恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル者ノ恩給ノ停止ニ付テハ其ノ者カ引續キ其ノ官職ニ在職スル期間ニ限り仍同法第九十九條第一項ノ規定ニ依ル
 第十八條 本法施行前恩給法第九十九條第一項ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケサリシ者又ハ前條ノ規定ノ適用ニ依リ同法第五十八條ノ規定ノ適用ヲ受ケサル者ノ當該在職期間ト他ノ公務員ノ在職年トノ通算ハ仍従前ノ例ニ依ル

第十九條 前條ニ規定スル者ヲ除クノ外恩給法第九十九條第一項ニ規定シタル者ノ大正十二年十月一日以後ノ在職年ハ同日以後ノ他ノ公務員ノ在職年ト互ニ通算ス但シ本法施行前ニ給與事由ノ生シタル場合ニ於テハ其ノ者カ再就職シ本法施行後退職又ハ死亡シタル場合ニ限り此ノ規定ニ依ル
 前項ニ規定スル者ノ大正十二年九月三十日以前ノ在職年ノ同日以前ノ他ノ公務員ノ在職年トノ通算ニ付テハ同日以前ノ舊法ノ例ニ依ル第一項ニ規定スル者ノ大正十二年十月一日前後ノ在職年ノ通算ニ關シテハ恩給法第九十條第一項ノ規定ヲ適用ス
 (別表省略)

附 則

第一條 本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十一條 第二項ノ規定ハ恩給金庫設立後三年間之ヲ適用セス

第二條 本法施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ增加恩給又ハ扶助料ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニシテ本法所定ノ增加恩給又ハ扶助料ノ金額ヲ受ケサルモノニハ當該金額ニ其ノ金額ト本法所定ノ各相當增加恩給又ハ扶助料ノ金額トノ差額ヲ

勅令ノ定ムル所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ増給ス

第三條 本法施行ノ際現ニ従前ノ規定ニ依リ傷病年金ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニハ勅令ノ定ムル所ニ依リ昭和十三年四月一日ヨリ左記下欄相當ノ增加恩給又ハ傷病年金ヲ給ス

現 症 狀 等 差	改 正 症 狀 等 差
傷病年金第一款	增加恩給第七項
傷病年金第二款	傷病年金第一款
傷病年金第三款	傷病年金第二款
傷病年金第四款	傷病年金第三款

第四條 本法施行ノ際恩給法第七十五條第二項ノ規定ニ依リ加給ヲ受ケ又ハ受クヘキ者ニ付テハ其ノ扶助料年額カ改正後ノ同條第一項第二號乃至第四號及同條第二項ノ規定ニ依リ受クヘキ扶助料年額ヨリ多キトキハ其ノ加給期間ヲ經過スル迄改正規定ニ拘ラス仍従前ノ規定ニ依ル

第五條 本法施行前恩給法(之ニ準スルモノヲ含ム)又ハ傷病賜金ヲ受クヘキ事由ヲ生シタル者ト雖モ其ノ症狀傷病年金ヲ給スヘキ症狀ニ該當スルトキハ勅令ノ定ムル所ニ依リ傷病ノ程度ヲ査定シ將來ニ向ツテ之ヲ給ス

第六條 恩給法施行前ニ戰鬪又ハ戰鬪ニ準スヘキ公務ノ爲傷病ヲ受ケ若ハ疾病ニ罹リ之カ爲死亡シ又ハ此ノ種ノ公務ニ因リ增加恩給(之ニ準スルモノヲ含ム)ヲ受ケタル軍人ノ寡婦、父母又ハ祖父母ニシテ軍人死亡ノ當時軍人ト同一戸籍内ニ在リタル軍人現役中陸海軍兵籍簿ニ登記セラレサリシ等ノ特別事由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者ニハ昭和十三年四月一日ヨリ之ニ扶助料ヲ給ス但シ其ノ軍人ノ遺族ニシテ同日ニ於テ現ニ扶助料ヲ受クル者アルトキハ當該扶助料權者失權シタル後恩給法ニ規定スル順位ニ依リ之ヲ給ス

前項ニ規定スル者ト雖モ軍人死亡ノ當時ニ於テ前項ノ事由以外ノ事由ニ因リ扶助料ヲ受クルノ資格ナカリシ者又ハ其ノ後ニ失權事由アリタル者ニハ扶助料ヲ給セス

第一項ノ扶助料ニ付テハ昭和八年九月三十日以前ノ軍人ノ遺族ノ扶助料ニ關スル規定ニ依リ其ノ年額ヲ定ムルノ外恩給法ニ依リ之ヲ給ス

第一項ノ扶助料ニ付テハ恩給法第五條ニ規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ起算ス

第七條 北海道廳森林監守ヨリ引續キ同廳森林主事ト爲リ恩給法施行後退職シタル者ニハ其ノ在職年ニ森林監守ノ勤績年月數ヲ通算シ昭和十三年四月一日ヨリ其ノ者ノ受クル年金タル恩給ヲ改定シ又ハ新ニ之ニ普通恩給ヲ給ス

前項ノ規定ハ前項ニ規定スル者ノ遺族ノ年金タル扶助料ニ付テハ準用ス

前二項ノ場合ニ於テハ恩給法第五條ニ規定スル請求期間ハ昭和十三年四月一日ヨリ之ヲ起算ス

●朝鮮教育會規則

大一一、四

改正 大一一、六 一四、六 昭四、六

第一章 總 則

- 第一條 本會ハ朝鮮教育會ト稱シ朝鮮ニ於ケル教育ノ改良進歩ヲ圖ルヲ以テ目的トス
- 第二條 本會ノ事務所ハ之ヲ京城ニ置ク
- 第三條 本會ハ支會トシテ各道教育會ヲ設ク各道教育會ハ分會トシテ各府、郡、島教育會ヲ設クルコトヲ得
- 第四條 本會ニ於テ施行スヘキ主要ノ事業左ノ如シ
 - 一 教育ニ關スル意見ノ發表
 - 二 教育及學藝ニ關スル事項ノ研究
 - 三 教育上須要事項ノ調査
 - 四 教育ニ關スル雜誌ノ發行及教育上有益ナル圖書ノ刊行

- 五 教育上功績アル者ノ表彰
- 六 教育學術ニ關スル講演會又ハ講習會ノ開設
- 七 社會教育ニ關スル施設又ハ之カ指導獎勵
- 八 朝鮮教育事情ノ紹介
- 九 教育關係者共濟ノ施設又ハ其ノ獎勵
- 十 學事視察又ハ研究ノ爲會員ノ派遣
- 十一 其ノ他本會ノ目的ヲ達スル爲必要ナル事項

第五條 各道教育會ハ本則ニ準シテ其ノ規則ヲ定メ之ヲ本會ニ報告スヘシ之ヲ變更シタルトキ亦同シ

第二章 會 員

第六條 會員ヲ分チテ左ノ三種トス

- 一 名譽會員 學識德望アル人ニシテ評議員會及代議員會ノ決議ニ依リ會長ノ推薦シタル者
- 二 特別會員 本會ノ爲特ニ功勞アル人又ハ多額ノ金品ヲ寄附シタル人ニシテ評議員會ノ決議ニ依リ會長ノ推薦シタル者
- 三 通常會員 支員ノ會員タル者

第七條 會員ニシテ本會ノ體面ヲ汚損シタル者アルトキハ評議員會ノ諮問ヲ經テ之ヲ除名ス

第三章 役 員

第八條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

- 會 長 一名
- 副會長 二名
- 評議員 四十名以下

代議員 若干名
幹事 若干名

第九條 役員ハ總テ名譽職トシ其ノ任期ヲ二年トス但シ代議員ノ任期ハ各道教育會ノ定ムル處ニ依ル
會長ニハ朝鮮總督府政務總監ヲ推戴ス

副會長ニハ一名ハ朝鮮總督府學務局長ヲ推舉シ一名ハ代議員會ニ於テ之ヲ選舉ス

評議員ハ會長ノ指名シタル者及各道教育會長ヲ以テ之ニ充ツ

代議員ハ各道教育會ニ於テ之ヲ選定シ其ノ員數ハ會員ノ多寡ニ依リ評議員會ノ諮問ヲ經テ會長之ヲ定ム

幹事ハ評議員會ノ諮問ヲ經テ會長之ヲ定ム

役員ハ任期滿了後ト雖モ後任者ノ就任スル迄ハ其ノ職務ヲ行フモノトス

第十條 會長ハ本會ヲ代表シ一切ノ事務ヲ總理シ兼ネテ會議ノ議長トナル

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ會長ノ指名シタル副會長其ノ職務ヲ代理ス

幹事ハ會長ノ旨ヲ承ケ會務ヲ處理ス

評議員ハ會長ノ諮問ニ應シ評議員會ニ於テ重要ナル事項ヲ審議ス

代議員ハ代議員會ニ於テ左ノ事項ヲ行フ

一 本會規則ノ改廢

二 本會豫算ノ議定及決算ノ認定

三 會長ニ於テ附議シタル事項ノ議決

四 代議員十名以上ノ同意ヲ得テ提出シタル事項ノ議決

第十一條 會長ハ會務處理ノ爲必要アルトキハ書記又ハ囑託ヲ置クコトヲ得

特別ノ必要アルトキハ會長ハ委員ヲ置キ調査研究ニ當ラシムルコトヲ得

書記及囑託ハ有給トナスコトヲ得

委員ニハ必要ニ應シ報酬ヲ支給スルコトヲ得

第四章 集會及議事

第十二條 總會ハ毎年一回會長之ヲ招集シ左ノ事項ヲ行フ

一 會務ノ報告

二 教育ニ關スル演說、談話及討議

三 食長ヨリ附議シタル事項ノ議決

會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時總會ヲ開クコトヲ得

總會招集ノ期日及場所ハ本會ノ雜誌ニ廣告ス但シ急ヲ要スル場合ニハ便宜ノ方法ヲ以テ之ヲ會員ニ通知ス

第十三條 評議員會ハ必要ニ應シ會長之ヲ招集ス

第十四條 代議員會ハ毎年一回會長之ヲ招集ス但シ會長ニ於テ必要ト認ムルトキハ臨時代議員會ヲ開クコトヲ得

第十五條 會長ハ評議員會又ハ代議員會ヲ招集スル暇ナシト認メタルトキハ書面ニ依リ賛否ヲ問ヒ會議ニ代フルコトヲ得

第十六條 會議ハ特ニ定ムルモノヲ除クノ外出席員ノ過半數ヲ以テ之ヲ決ス可否同數ナルトキハ會長ノ決スル所ニ依ル

第十七條 本會規則ノ改正ニ關スル議決ハ代議員會ニ於テ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ルニ非サレハ之ヲ爲スコトヲ得ス

第五章 會計

第十八條 本會ノ會計年度ハ毎年四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ニ終ル

第十九條 本會ノ經費ハ各道教育會分賦金及其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ充ツ

各道教育會分賦金ハ通常會員一人ニ付年額一圓八十錢ノ割合トス

第二十條 本會ハ寄附金、剩餘金其ノ他ノ收入ヲ以テ基本財産ヲ設定スルコトヲ得
 第二十一條 基本財産ハ代議員ノ議決ヲ經ルニ非サレハ之ヲ處分スルコトヲ得ス

●財團法人朝鮮教育財團寄附行爲

第一章 總 則

- 第一條 本法人ハ財團法人朝鮮教育財團ト稱ス
 第二條 本法人ハ朝鮮教育ノ改良進歩ヲ圖ルヲ目的トスル朝鮮教育會ヲ維持スルヲ以テ目的トス
 第三條 本法人ハ其ノ事務所ヲ朝鮮總督府内ニ置ク
 第二章 資 産
 第四條 本法人設立ノ日ニ於ケル財産ハ別紙目錄記載ノ通トス
 第五條 本法人財産ノ取得管理又ハ處分ニ關シテハ理事會ノ決議ヲ經理事長之ヲ行フ
 第六條 本法人ヲ解散シタル場合ニ於テハ其ノ財産ハ國又ハ朝鮮教育事業ニ寄附スルモノトス
 第三章 評議員
 第七條 本法人ニ評議員ヲ置キ朝鮮教育會長、同副會長及各道教育會長ヲ以テ之ニ充ツ
 第八條 評議員會長ハ朝鮮教育會長之ニ當ル
 第九條 評議員會長ハ評議員會ヲ召集シ其ノ議長トナリ其ノ他評議員會ニ關スル一切ノ事務ヲ處理ス
 第四章 理 事
 第十條 本法人ニ理事長一名副理事長一名理事五名ヲ置ク
 第十一條 理事長ハ朝鮮教育會長ヲ以テ之ニ充ツ
 副理事長ノ指名シタル朝鮮教育會副會長ヲ以テ之ニ充ツ

理事ハ理事長之ヲ指名ス

理事ノ任期ハ二年トシ、補缺理事ノ任期ハ前任者ノ殘任期間トス

第十二條 理事長ハ法人ヲ代表シ理事會ヲ召集シ理事會ニ關スル一切ノ事務ヲ處理ス

理事長事故アルトキハ副理事長其ノ職務ヲ代理ス

第五章 會 計

第十三條 本法人ノ會計年度ハ四月一日ニ始リ翌年三月三十一日ヲ以テ終ル

第十四條 本法人ノ會計ハ理事會ノ決議ニ依ル會計規程ニ依リ之ヲ處理ス

附 則

第十五條 本寄附行爲ヲ變更シ又ハ本法人ヲ解散セムトスル場合ハ理事會ニ於ケル理事全員ノ同意ニ依ル決議ニ基キ
 主務官廳ノ認可ヲ經ルヲ要ス

第十六條 本法人設立ノ際ニ於ケル理事ハ左記七名ヲ指定ス

理事長	湯 淺 倉 平
副理事長	李 軫 鎬
理 事	平 井 三 男
理 事	岩 佐 重 一
理 事	俞 萬 兼
理 事	高 橋 濱 吉
理 事	重 村 義 一
理事長	大野 綠 一郎

現任理事次ノ如シ

副理事長	鹽原時三郎
理事	高尾甚造
理事	岩下雄三
理事	金大羽
理事	岩村俊雄

昭和十三年七月二十日 印刷
 昭和十三年七月二十五日 發行

〔定價金貳圓五拾錢〕

〔送料參拾錢〕

朝鮮總督府學務局學務課編纂

發行者 朝野菊太郎
京城府孝子町一三九

印刷者 羽田茂一
京城府蓮葉町三ノ六二

印刷所 朝鮮印刷株式會社
京城府蓮葉町三ノ六二

朝鮮總督府學務局內

發行所 朝鮮教育會
振替口座京城壹〇參〇番

版權
 所有





